

天の危機・人類の危機を迎えて—

天上界 メッセージ集 III

千乃裕子/JI編集部編



千乃正法
(エル・ランティの法)

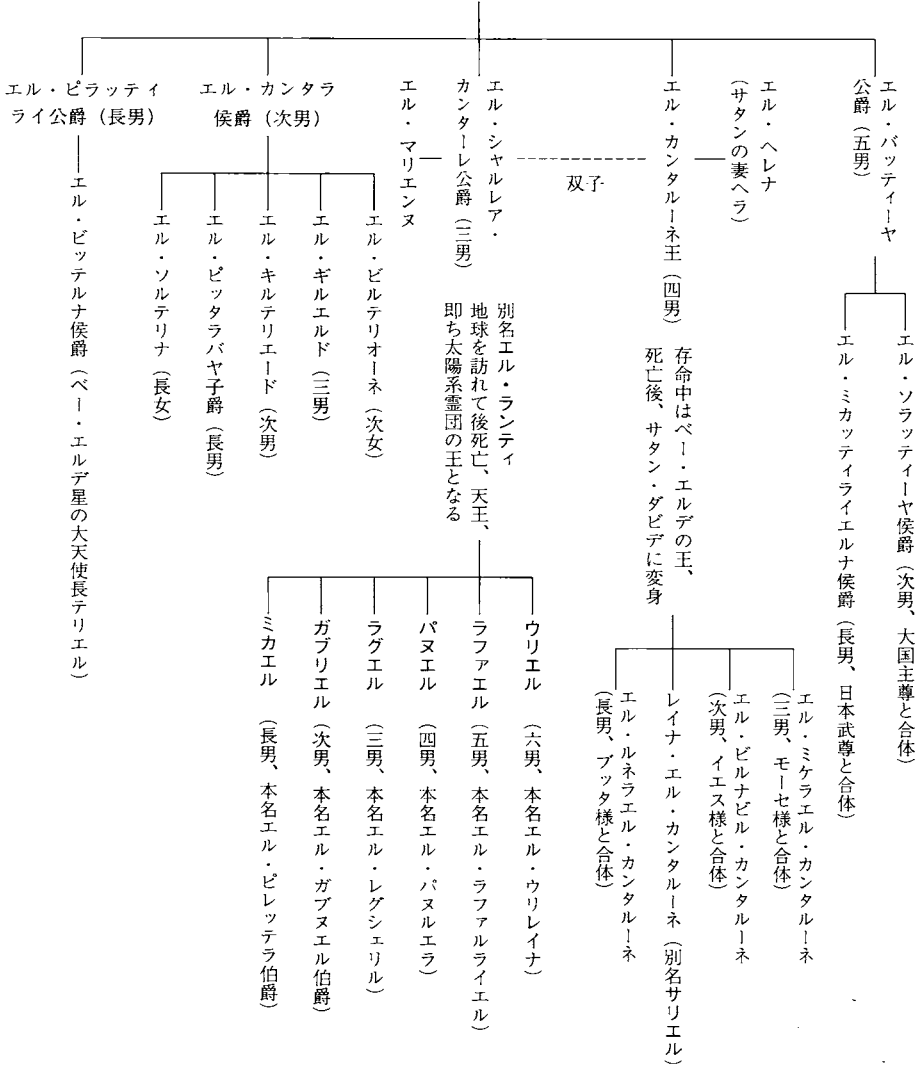
天上界メッセージ集・Ⅲ インターネット公開版

発行日 平成 7年 2月15日
編者 千 乃 裕 子

電子書籍作成 平成17年 5月 5日
最終更新日 平成18年 1月 3日
作成者 エルアール出版
(旧ジェイ1出版)

エル・カンタルーネ王家の系図

エル・ソラッテイーヤ王



天の危機・人類の危機を迎えて―

天上界メッセーヂ集・Ⅲ

千乃裕子／J I編集部編

(株)ジエイアイ出版

天上界からメツセージ

エル・ランティ

天国シリーズの中の私に関する記述が、今日の私の私自身によるメツセージとは異なるので、一部の人々には驚きと喜びを、他には反つて戸惑いを与えるものかも知れません。

しかし、最近の千乃裕子様に関する正法者内外での誹謗、中傷と不当なる弾劾、そして背反を外部分から積極的に誘う気配は、看過しがたいものがあり、私の身に及ぶ危険もさることながら、やはり天の現状報告の為、あなた方の前に身を明らかにするべく決意したのです。

まず、天を二分し、多くの霊達並びに高次の霊を犠牲にしたあのサタン・ダビデ、即ち、不幸にも私の双生児の弟として生を享けた悪なる霊が、私達天の善霊少数と七天使の勝利、そして私自身の手によつて遂に滅ぼされた喜びの日、一九七八年二月十三日午前十二時半以来、表面上私は不肖の弟の悪業の数々の責めを負つて、自ずからの生命を断つと見せかけ、実はその後の霊界の混乱を防ぐべく、数ヶ所を往来し、身を潜めていました。その間に出来得る限り、ミカエル他元七天使の新しい役割と任務

を側面から助けてきたのです。

私の心を十分に理解したミカエル大王と元六大天使は、世界の悪を滅し、地球に真の平和を来たらせる為、自由の為に身を賭して闘い、そしてその生命を失いました。高次の霊達も共に闘い、同様の結果となったのです。千乃裕子様他一部の正法者も勿論三次元側からの協力に多大なるものがありました。

その成果がついに昨年迄の共産圏から自由世界への解放と自由世界の拡大でした。

しかし反面、左翼勢力を幫助する悪霊の暗躍で、千乃裕子様を何としても失脚させ、千乃正法を解体させる動きが内外共に目立ち始め、五、六年前より共産主義者の地下活動の尖鋭化と平行して、その活動の隠蔽の為、彼等の全国組織の三系列が連携、最も卑劣なる手段を用いて千乃様を抹殺しようとして計り、守護するメンバー共に多種、多数の車両で追撃し、進路を阻み、有害チームを用いてS波による千乃様への集中攻撃と、守護メンバーの移動中、走行

時には眠気をもたらすアルファー波様の連続ビームで、事故誘発を計り、その間千乃様は長時間の催眠状態に置かれて、お仕事をさせず、思考を阻害し、人との交流、会話、精神活動の総てに干渉して、S波干渉、介入による全面的な拷問作戦を展開したのです。

このS波は、スカラー波という米ソ開発の軍事ビーム兵器で、一説には異星人からの技術提供と言われ、最近、といっても、五、六年前から個人用の野戦兵器にも改造されて、左翼ゲリラグループに普及しているものであり、千乃様とその守護グループは常に攻撃を受けて長時間一ヶ所に留まることも出来ぬ有様です。

これは全くの共産圏に於ける精神病院幽閉の政治犯に加える拷問と同じで、これら攻撃をコンピュータ処理し、種々の測定機に連結して二十四時間体制で行なっていると思えるからには、プランし、操作する人物がその関係の助言を受けているか、もしくは日本の関連左翼勢力（民医連など）が、その種

の拷問方法を既に確立し、党内で利用しているか、将来に備えているかのどちらかでしょう。

更にこのゲリラ・グループは、最近普通乗用車、軽自動車、長距離輸送車、冷凍車、大型トラック、マイクロ・バス、代理タクシーなど三十数台に分乗し、そのエンジン部分や後部トランクに同兵器を潜ませて、戦車のように走りながら千乃様の乗っておられる車や守護グループに向けて発射、攻撃する形で昼夜を分かたず、場所の如何を問わず襲いかかり、警察はこういった左翼の巧妙なゲリラ戦術には被害に遭う市民を守る警備体制も確立していないのか、守護メンバーが少ないことから、千乃様の車を安全に近い場所へお連れするのに手一杯で、これらゲリラ・グループを訴える為の手段や手続きを取る機会を中々作り出せない現状です。

しかも近接戦略による有害ビームは、その陰湿で卑劣な攻撃パターン共に千乃様のお生命を縮め、そのお苦しみは一般の想像を超えるものであるにも関わらず、反って千乃様に難あり、原因ありとする非

人間的、且つ非論理的な元正法者（背反者、退会者を含めて）の何と多いことか。

スカラー波というビームの特異性により、防御が思うように行かない。対抗する兵器の開発も反撃する側の健康面への悪影響を考慮して捗らず、私達天も科学者に助言すれども、自ずからのエネルギーも電磁波であるだけに、スカラー波阻止にはあまり有効でなく、自然現象の利用などで攻撃ビームを弱め、拡散する位の奇蹟を現わすしかないので。それを天の無能力、千乃様周辺の無策と断じたり、且つビームの存在を否定するなどの無思慮で、知恵に欠ける退会者なども現われ、天としてもこのまま看過せぬ思いで、私エル・ランティを置いて他にこの千乃正法（私エル・ランティの法）参与者の盲動と愚拳を改めさせるに適任は居ないと確信し、あなた方の前に我が身を現わす決意をしたのです。

昔忠実であった人々が、外敵と闘うことを忘れ、まるで飼い犬が主人の手を噛むように、千乃様や私達天に牙をむき出す様は、正法者を自認する人々の

偽我を通り越して、醜い人間のエゴが露呈された
としか見えません。

ここにおいて、古代よりひたすら天の法灯を絶
やさぬ為に、どれだけの犠牲を払って現天上界の
善霊並びに高次の霊が尽くしてきたか、あなた方
正法者（背反した者も含めて）の想像だに出来ぬ
所でしょう。

只、これだけは今この時期、似非キリスト、似
非ガブリエル、似非モーセの本体などといった正
法の土台を崩そうとする悪霊の化身が、次々と元
正法者並びに背反者を利用して名乗りを挙げてい
る時に、天としては断固としてそれらを排除し、
且つ迷妄の域に入り込み、他の混乱を招いている
人々に知らせておかなばならぬことがあります。

私エル・ランティの名譽に賭けて、イエス様、
モーセ様、ブッタ様並びに元七大天使（ミカエル
大王を含め）のうち、ラファエル大王補佐を除く
者総ては、現在に至る世界情勢の混乱期に、各国
の悪霊化した左翼の霊団に暗殺されて、現天上界

に霊としても存在してはおられず、尊い永遠の生
命を、々霊の死々という形で、無残にも多勢の悪
霊に奪われてしまったのです。

これ以上の悲劇はない。しかしこれが現在の天
の真実であり、真相なのです。

従って、現在輩出する々ガブリエル々々モー
セ々々イエス々々と名乗る霊は、悪霊であり、
偽者でしかない事を、ここにはつきりと断言致し
ます。千乃正法の内部にある人々は、夢これら偽
者の悪霊に惑わされぬよう心して下さい。

なお、読者他の混乱と悲しみを避ける為に、
々ミカエル々々ガブリエル々々の名でメッセー
ジをラファエル大王補佐が出した時もありました
が、善意による配慮であることを理解して頂きた
いと思います。

また、私エル・ランティは、千乃様とラファエ
ルを助けて、卑劣なる左翼の地下活動メンバーと
の闘いに参与してきましたが、ここに至る一時期、
西澤徹彦様の著書々古代日本と七大天使々の原稿

の資料を提供し、指針を与えたり、信頼する善靈に、名古屋の辻大介（詫間稜一郎）氏の守護と指導を依頼したりしつつ、千乃裕子様と小賀竹留様との大宇宙全般に関する討論の指針を与えてきたことも、ここに改めて公表致しましょう。

現在千乃正法の混乱期にその亜流を装い、名乗り出て憚らない背反者の筆頭、高寺勝也氏、他、退会者高野守歯科医師などの提唱するク現正法クなるものはあくまで、付け焼き刃のまがいものであり、古代ユダヤより連綿と伝え来たった正統なる天の教え、現天上帝が最新にして最終の天の仲介者であり、ミカエル大王妃レイナ・エルこと千乃裕子様を通じてあなた方に伝えた天の法ではないことを、私、エル・ランティの名に於いて、今日ここに誓い、且つ断言致します。

（一九九四年七月十五日） 口述筆記 千乃裕子

* * *

附記

邪悪な悪霊の手引きで千乃正法潰しを計る左翼系三大全国組織、民青、民商、民医連並びにそのリーダーたる精神科医である政治委員が、正法界を背反者や退会者などにより二分し、更に心理的に次々と内部離反者を増やしつつ、背反グループの動きもS波によるモニター、電話盗聴、左翼系マスコミや海外組織との連携で完全に掌握し、千乃正法再建の動きをストップし、反共組織潰しに成功間近と見るや、その背後の悪霊までがク新王ガブリエルククイエスククモーセクなどと名を騙り、アメリカに居られる谷田三枝様にしばしば現われて、それらしき（しかし何も内容なく、現天上帝メッセージの語り伝えたものは何一つ含まれていない、私達とは異なる話し振りと説話であることが特徴）メッセージなるものを靈言し、しかも古い集いを捨てて新しい集いを招集するべしなどと、明らかに正法の集いを分断する語りかけであるのに、それを無批判に受け入れ、他の人々に提示して廻る無自覚な人物も居ることは、千

乃様とその周辺の人々が私達正統なる天のメンバーに守護されてそういつたメッセージの相違点や、左翼ゲリラの攻撃の有無など冷静に判断する能力を備えているのに、一旦天を離れ、正しい指針を得られなくなつた背叛者や退会者は、千乃正法を学んでいた間の良識と知恵、科学的な事象の把え方の総てを失なつてしまい、愚言を弄して千乃様やグループを支える人々を悪し様に言うのみに終わるのは、如何に人々が良心と理性などの正しい精神活動に天の真理と真実を必要とするか。また一旦天を信ずる心を失なうと、思考、判断力を失なつてしまい、天に逆らい続けることによつて、性格まで粗野になつたり、

その心の柔軟性、自由で宇宙とも一体化し得る知性や論理性も歪められ、失なわれてしまう（知能が硬化してしまふ）のが驚くほど顕著になります。

宇宙と天を支える真理は一体であり、個人は宇宙の歴史と成長を体内に内蔵し、その広大で自然なりズムと相呼応しているのです。

しかし、或る時点においてこれら大自然との正しい交流を拒否し、思考、判断に歪みを生じると、そこにおいて真理探求の精神活動が阻害され、個人の叡智と洞察力が失なわれる。すなわち、個人の脳が成長を止め、老化の一途を辿ることになるのです。

エル・ランティ

『天上界メッセージ集・Ⅲ』 発刊によせて

千乃 裕子

この数年間、私個人のいわゆる天中殺前後年に突如として降り懸かった大災厄の渦中には且て思いもしなかった周囲の目まぐるしい変化―特に家族や交流する人々―知人、友人、正法関係の人による裏切り々が天の仲介者としての私の恵まれているはずの人生に暗雲をもたらし、私と正法の生命を危険に晒したこと。

その間、私自身無我夢中でその日その日を個人的な闘いに明け暮れ、いつこの災厄（人災と言うべき類の、恐らく共産党全国組織の一つ々民青々組織による地下活動的な迫害を受け（極秘裡にしかも充分な被害と損害を与えられつつ、それを法的に訴え、解決する手段もなく、現在もその渦中にある）から逃れられるのか、まだ目処もつていない現状ですが、最近のメッセージにもある通り、欧米の先進諸国では最新軍事兵器として極秘に使用されるスカラ―波々なるビーム兵器であることが種々の情報や体験、現

象を通して十二分に立証されてきました。

更に、この々民青々メンバーのみと思われていたのが、あまりにも見掛ける私達への妨害車の種類台数が多く、工事関係、農業関係、商店主、ガンリン・スタンドのオーナーなど、職種が多岐に互り、不審に思っていると、警察関係の親切なアドバイスがあつて、これはどうやら民商、民青の連携であるうと言われ、それならば、以前に見掛けた、他を撮ると見せて私のスナップ写真を撮った人物が、一昨年春、同じマンシヨンの最上階と次の階に住み込み、毎日近くの流行らない外科病院に通っていたこと。いつもその病院の方角から、私の部屋の表側高窓に強いS波攻撃ビームが届いていたこと―その手口が脳波、生理反応測定器などを駆使して、発汗、赤面、麻酔を掛けるのに似た深い催眠効果などを私に強制し、それによって周辺の対人関係を阻害しようとした（こういうった生理反応の総てはS波攻撃

によつて可能)。仕事も勿論させない。一日の中二十時間眠らせたり、一回に一〇〇回、一日二十回、五分〜十五分置き、もしくはは三十分置きに、腰の部分を四方から強く圧迫したり、如何に抵抗しても負けてしまふ、万力で絞り出すような感じの排尿強要（完全に脱水状態になり、しょつちゆう飲み物を飲まないとい喉の乾きを覚える）、片方の腎臓を痛みを覚えるS波ビームで攻撃―あたかも人工透析のようにな―これは一〜二分で再び排尿させられる、排尿、排便同時強要など他にも医師でなければ思い付かないような、疾患を長引かせる方法を思い付いては私に実験する。排尿強制が常時で、冷えて気管支炎が直らず、慢性化する。人と人の対話時や電話などでも同様の陰湿な妨害に加え、側頭葉にビーム照射、言語障害、失語症様の症状をもたらず。あるいは、前頭葉や側頭葉に一人または複数の人物により陰湿で下劣な言葉や映像をマインド・コントロールの手段でくり返し、強制的に投影。その他、不快な感覚、冷たい感覚、暖かい感覚、恐ろしく痛むワンポイント攻撃で防御が成功する迄持続するビーム、かゆみを覚えるものなど際限もなく私に知覚させます。（これがいわゆる政治委員として二大組織を動かしている人物で、勿論民医連の一人に違いないと思われまふ。でなければ誰がこのように長期に熱意

を以て一老女にセクハラ攻撃と関連させた排尿（失禁）攻撃を続け、あわ良くば、〃還暦老女の色狂い〃かボケ老人を演出して見せる。また、協力する多数の人間が左翼ゲリラでもなければ、このような馬鹿げたことに情熱を注がないでしよう!!）《更に執拗ないやがらせの一環として、老若男女のゲリラグループは電子レンジ様の加熱・脱水効果のあるS波の特性をフルに生かし（勿論、前述の民医連内の特定個人の政治委員主導で私の女性としての弱点を捉え、最大限の屈辱を周囲から受けるように）排尿やセクハラ攻撃に加えて、顔を集中的に狙います。それがあまり長期に互つたので、最近では少しの攻撃も顔の皮膚の老化に つながら、しわ防止に色々クリームを塗るとすぐそれが何時であれ、ゲリラ側のコンピュータ・プログラミングで探知、攻撃を受け、日々しわの彫りが深くなるばかり。あきらめムードで、三〜四日に一度しか塗らない。入浴や洗髪など一年半ほどさせてもらっていない。身体をせめてアルコールで拭きたいと思つても、着替えをする時でも大抵突然に人の入室があり、私は落ち着いて着替えも出来ないなど、着替えることさえ、私の生活反応はすぐ人に伝わり（天上界のエネルギーで生かされていて、電気人間のようなので、エネルギー放出が直接でしかも大きい）、天が私を介

して靈現象が可能なように、左翼ゲリラの下卑た想念がS波の洪水と共に私の脳に伝わり（あえてそうしているのかも判りませんが、S波はマインド・コントロールや想念伝達及びモニターが可能です）、以前には、ラファエル様も排除し切れぬ位、時には強く来て苦勞しました。》

この知覚が問題で、以前は良く前記に加えて、一頃テレビなどで人の視線を追うモニターが放映されましたが、私の視線を支配的に強要する操作や、私が身体的に単にビーム攻撃を知覚すると、周囲の人々が必ず嫌悪したり、はつきりと距離を置いて敬遠したり、冷淡に対応したり、車のドアを音を立てて何度も閉めたり、そうなるゲリラの方に向かわず、私のみを意識し、特に注目し、他の事が目に入らなくなる。女性は自分の下着を私の洗濯物の袋に入れて母親の所へ宅配させたり―男性は靴下やアンダーシャツやポロシャツを混入させる。セクシーと言うんでしょうか、そういうポーズを私にして見せる。それを自覚している人は少ないですが、私は不快なそして有害なマイクロ波優先のビーム攻撃に遭いつつ（私の知覚神経が機能すること自体がいけないのか？では半身不随にでもなれと？）、周囲の人の痴態を見せられ、愚行を目にするので（このような時は勿論、彼等は作業ミス、手抜き、わざとS波侵入を計

るなど、利敵行為（完全にゲリラ側の惑乱作戦に乗り、私と天上来に対しての敵対行動、反対行動）に出るので）私としてはこれ以上迷惑なこともなく、また正法者サイドからの天上来と私に対する冒洗であると常々思います。S波ビームと私がそれを知覚することにおいては全く機械的、物理的な反射であり、反応ですから、それをゲリラの政治委員は、こと更に人の妄想をかき立てることを目論見、正法をあたかも「幸福の科学」か何かの非常に俗的な宗教に見せかけるべく二十四時間のコンピューター連動攻撃に身を入れていたのでしょう。これには老若男女が参加し、嬉々として彼等の事業々に励んでいるようなので、社会主義思想の持ち主には精神的に凡そ不潔感がないのではないかと思えます！また、今はこの程度だが、社共政権の世になれば、お前達は充分に思い知るぞとも思っています、しかし、千乃裕子という還暦を過ぎた老女は追い詰めて、早く殺しを完了しないと、又もや碌でもない活動を始める。

共産党組織にとつて目の上のこぶ、自分達のイデオロギー諸犯罪、諸地下活動、凶悪犯罪から革命、革命から凶悪犯罪への胸の空くようなスリルと悪々を完遂する喜びが阻害される（これは面白くない）。警官を操り、手玉

に取り、脅しさえかけられる（唯一の党！）、日本政府と司法を出し抜き、好き勝手に振る舞える唯一の党！！　　天皇々々り自分達の方が優位に立ち、対等に喋れる唯一のエリート黨員だとのプライドを持ち、教条主義的レーニンとスターリンと毛沢東信奉者（ウサギを何匹も撲殺し、政敵をライオンに食わせ、自国民を一億人と言わず、収容所若しくは監獄で拷問と飢えと重労働と虐待で殺したりダーを超大国の強者々として尊敬し、一人一人がその如くあやかりたい。権力を持ちたい。意見の違う者は次々と抹殺―つまり殺したい！！　妻殺し、友人殺し、政敵殺しを思う存分やってみたい）、そういった無法を喜ぶマルキストは旧ソ連の鉄のカーテン（犯罪隠匿の為のもの！！）の中で、ソルジェニーツイン氏の『収容所群島』第一巻の帯文によれば、「革命直後の一九一八年に始まるソビエト体制の非人間的な側面を告発し、その凄惨苛烈な凶悪犯罪の全貌を白日のもとにさらす。イデオロギーと狂信とが現世に送り出した地獄図―かつてわれわれは、このような比類なき残酷さを帯びた無法な弾圧の歴史をもったことがあっただろうか？」、『北朝鮮（収容所）脱出』（姜哲煥、安赫両氏著）に綴られた事実―現実！！　『鴻』に語られた中国共産党社会のすさまじい事実（訳者によればあまりの事実と言葉を失う）、

政治迫害と人災である政府が仕組んだ大飢饉による国民の大量死（十九世紀末の清朝滅亡前から文革という名の狂気が終わる迄の約一世紀間の中国の人々の苦難の歴史）、これこそ「架空の南京大虐殺」であり、中国政府は自らの自浄化なく、日本の関東軍によるものとデッチ上げの虚報を流し、共産党政策の過ちと欠点を中国人民の目から隠そうと試みている！！　『キリング・フィールドからの生還』（ポール・ポト共産党政権下のカンボジア大虐殺の生き証人ハイン・ニヨル氏のドキュメンタリー）、こういったマルクス・レーニニズム共産主義の国家的凶悪犯罪を日本の書店にこれら真実の書を長期に置かせないよう、色々と陰で画策し、こと更に旧日本の軍部の戦場での敵兵殺害を針小棒大にマスコミが宣伝しているのが最近の日本の実情です（もし、残酷な人間が居たならそれは現在の左翼メンバーでしょう）（鴻さんも中国政府の文革時の宣伝を真に受けて、関東軍が南京で一般市民を大量虐殺したなどと知らずに詳述していますが、人民服の便衣隊をあぶり出して処刑したこと、敵兵と戦い、地域的に双方に死傷者が出た事実を誤認しておりです！　それを彼女に修正、訂正して上げない訳者もどうかと思いますが、日本の左傾マスコミの抗日喧伝に洗脳されて居られるのでしょうか？　非常に残念なことで

す。その点A・ソルジェニーツイン氏は数学者・物理学者らしく真実を公平に追跡し、公正な判断に基づき、著述しておられるので、読んでいて気持ちが良いのです。虚偽の真つ只中、真と善がそこに一貫して俯瞰的に見出せるからです。

こう言う私も最近迄は収容所の懲罰房に押し込められたような数年で、私に関する真実の訴えは死ぬ迄、実現しないかと思っていました（今もそのように感じる事が多々あります。周囲の人々は看守か、ゲリラサイドの手引きをすることを正しいと信じる人かで、私を痛めつける事に内心喜びを覚えているらしい人も（そうは表明しなくても行動面でそう現われる）少なくありません。医学者やエンジニア関係の科学班に多いのも情けない事実です。S波を研究せず、私を裁く偽善的な人々です。神界止まりなのもむべなるかなです）、幸い『天上界メッセージ集・Ⅲ』が出ることになり、私に序文を依頼されましたので、長文にはなりますが、また、左翼のイデオロギー犯罪が絡む所、更なる人間の醜さの世界の告発となり、女性として記述したくない、すべきでない事も、彼等の意図を黙認すれば、必ず火の粉が他の重要人物に飛び、抹殺される可能性があるるので、あえて告発しました。（特に一昨年から昨年にか

て私と同じではなくても（現在もマスコミには現われていなくても益々被害者が一般人に及んでいます）、S波に被害を受けているような報告がマスコミに多く現われ、単純で頭の固い人々が故事来歴と同一視、一笑に付した時期がありました。今年夏辺りから米国でも送電関係、電気器具使用についてのトラブルが報告されています。それ以前はS波による被害と確認の情報がこちらに届いていました。クリントン氏、大統領に選出の前後です！

背反した愚かな人々についても、天とサタンの識別は現在非常に困難で、それらは表面に表れた、若しくは（巧妙に隠された）人間（左翼）の（サタンの操りもあると思える）獸性に惑わされず、真実への直観と生命の尊厳に基づく鋭い分析及び判断力で洞察すること―その高度の精神の働きがなければ、人は凡庸の世界に世俗の塵にまみれて理由も判らず滅びる（死）だけのものになると思います。

現在、正法者の表れを見る時、天と人間相互間の不信に振り回されて、ソルジェニーツイン氏の表明される精神面と倫理性の墮落が顕著であると思えます。極限状況にある時、人は獸性に走る人と精神が高揚する人の二種類であり、神への信仰が弱まる時、良心に背を向け、あらゆる高貴な精神性が見失われて、サタンに屈することになる―

のでしよう。

次いで、私が共感し、感銘を受けたソルジェニーツィン氏著書（木村浩訳）『収容所群島』（新潮文庫）より引用させて頂きたいと思います。ロシアの現在はまだ自由の旗は掲げられず、かつて囚人達を流刑地で焼き殺した兵隊が、クロアチアのチェチエンで三か月の赤児をオーブンに放り込み、焼き殺したとの残酷なニュースが新聞で報道されております。赤ん坊を奪われ、殺された母親は気が狂ってしまったそうです。

「生存方法としての裏切り行為。人間は自分自身や自分の家族に絶えずふりかかる危険に対し、長年にわたって恐怖をいだいているうちに、その恐怖に隷属する奴隷となってしまうのである。そして、絶えざる裏切り行為が最も危険の少ない生存方法であることがわかるのである。

最も軽い、その代わり最も普及している裏切り行為は、直接的には何も悪いこと（ソ連政府の言う）をしないことである。だが、それはすぐ隣で滅びていく人に気づかないことであり、その人を助けられないことであり、背をむけて、小さく身を縮めていることである。たとえば、隣人とか同僚とか、さらにはあなたの親友までが逮捕されたとする。あなたは黙っていて、気づかなかつたふりをする（あなた

は今の仕事を失ってはならないからだ！。）」

『収容所群島』第四卷（一九一八―一九五六）第三章四五頁―四二六頁）

「これらはすべて裏切り行為の最も小さな段階のものにすぎない。すなわち、敬遠するということである。」

（同四二八頁）

「人びとは裏切りの場に生きており、優れた論証がその正当化に使われていた。」

（同四二九頁）

「わが人生の曲折の隅々を照らしたのは

おのれの理性や希望ではなく

《至高の意味》の穏やかな輝きなのだ

それが明らかになったのは後のことだけれど

そして今や私に返された器で

生ける水を汲みあげながら

宇宙の神よ！ 私はいふたび信じている！

あなたを拒んだ私のそばにあなたが存在したことを……」

（同第四卷第一章三九二―三九三頁）

「それ以来、私は歴史のあらゆる革命の偽りを理解した――それらの革命はその時代だけの悪の担い手たちしか（慌ただしさのなかで区別せずに、善の担い手たちをも）絶滅していないのだ。悪そのものは、倍加した形の遺産として

残すのである。」

(同三九三頁)

「まだ二〇年代と三〇年代の初めには、わが国の多くの
人びとが純潔な魂を保っており、以前の社会観念を持ちつ
づけていた―災難に手をさしのべたり、困っている人びと
の味方になったりした。：全国民的な墮落のためには最小
限必要な期間があつて、それが過ぎないうちは、偉大な
《機構》といえども国民を完全に料理することはできない
のである。：ロシアの場合には二十年が必要であつた。：
だから、それらの国々では当局から迫害を受けた家族たち
はあらゆる方面から援助を受けた。」

「《群島》にとつての一九三七年を評価したとき、：わ
れわれは裏切り行為というさびついた冠をかぶせなければ
なるまい―ほかならぬこの年がわが国の娑婆の魂をふみに
じり、その魂のなかに大量の墮落を注ぎ込んだ、：」

(同四三〇頁)

「当局に対する抗議行動はいずれもその行動の規模をは
るかに上回る勇氣を必要としていた。アレクサンドル二世
時代にダイナマイトを保存することは、スターリン時代に
人民の敵の孤児となつた子供を引き取ることよりもはるか
に安全だつた。」

(同四三一頁)

「墮落。長年にわたる恐怖と裏切り行為のなかで生き抜

いた人びとは、ただ外見的に肉体的にしか生き残れないの
である。内部にあるものは腐敗していくのである。だから
こそ何百万人という人びとが密告者の仕事を引き受けたの
だつた。」

「一部の人びとは恐怖心のために親類を監獄にぶちこん
だ―これはまだ最初の段階だ。一部の人びとは私利私欲の
ために、また一部の人びとは―当時は最も若い人びとで、
今は年金暮らしに入ろうとしている年齢の人びとだが―意
気こんで裏切つたり、思想的に裏切つたり、ときには公然
と裏切つたりしたので。―敵を暴露することが階級的な手
柄と見なされたからであつた！ これらの人びとがすべて
われわれの間に生きており、しばしば良い暮らしをしてい
る。」

(同四三三頁)

「墮落した社会では恩知らずもごく日常的な一般的な感
情であり、それに驚く人もほとんどいない。」(同四三四頁)

「総合的な社会生活は、裏切り者たちが選抜され、無能
な人びとが勝利をおさめ、そして最も優れていて正直な人
びとが切り刻まれるようにできていたのであつた。」

(同四三五頁)

「絶えず嘘をつくことが、裏切り行為と同様に生きるた
めの唯一の安全な方法となるのである。」

(同四三八頁)

「舌の動きひとつにしても誰かに聞かれる可能性があり、顔の表情ひとつにしても誰かに見られる可能性がある。したがって、ひとつひとつの言葉がたとえ真つ赤な嘘でなくとも、一般の嘘と矛盾してはならないのである。」

(同四三九頁)

「残酷。これまで述べてきたすべての特質のなかにあつてはたして親切な心が保たれたであろうか？ 溺れている人びとの助けを求めて差し出された手を払いのけながら、どうして善良な心を保てるであろうか？ いったんその手を血に染めると、あとはもう残酷になるばかりである。いや、その残酷さ（《階級的残酷さ》）を謳歌し、育成したのである。その結果、悪と善との境界線を見失なってしまうのである。しかも、善良な心根が嘲笑され、憐憫の情が嘲笑され、慈悲の心が嘲笑されたら、もはや血に飢えた連中を鎖で繋ぎ止められないのである！」

(同四四四頁)

以上、A・ソルジェニーツイン氏のノーベル文学賞受賞作品『収容所群島』からの引用が長くなりましたが、新刊『天上界メッセージ集・Ⅲ』の発刊に当たり、何を書くべきか、何をアピールするべきか色々迷った末、やはり第三集の編集内容からも、現在の私個人の異常な環境、異常な生活条件下にあつて、最も共感する所多く、同著書に関する

所感が最適ではないかと思いました。

更に、私自身が投稿しておりますJ誌転載の拙文でも種々訴えておりますように、狂信的な民衆、民商、民医連のゲリラ活動によるゲリラ戦もようやく慣れも生じて、こゝうやつてマインド・コントロールされたり、私怨を私に投影するノイローゼ的な周囲のキャラバン隊兵士(?)を叱咤激励しつつ、時に激しいゲリラの妨害もあり、その間をかいくぐつて原稿の一つも書けるのは、防御面でそれだけ効果が挙がつたということでしょうか。

(一九九四年十二月二十五日)

推薦図書

『収容所群島』(全六卷)

ソルジェニーツイン著 木村浩訳

(新潮社)

『ワイルド・スワン』(上・下)

ユン・チアン著 土屋京子訳

(講談社)

『キリング・フィールドからの生還―わがカンボジア殺戮の地―』

ハイン・ニヨル/R・ワナー著 吉岡晶子訳 (光文社)

『北朝鮮脱出―地獄の政治犯収容所(上巻)』

氷上の逃走(下巻)』

姜哲煥/安赫著 池田菊敏訳 (文藝春秋)

『凍土の共和国―北朝鮮幻滅紀行―』

金元祚著 (亜紀書房)

目次

一九九四年七月「天上界からメッセージ」……………エル・ランティ…3	
―天の危機、人類の危機を迎えて―	
『天上界メッセージ集・Ⅲ』発刊によせて……………千乃裕子…9	
第一部 天上界メッセージ	
○ 第一章 一九八五年……………ミカエル、ガブリエル……………21	
○ 第二章 一九八六年……………ミカエル、ガブリエル、ラファエル、ウリエル、ラグエル……………36	
○ 第三章 一九八七年……………ミカエル、ガブリエル、ラファエル……………64	
○ 第四章 一九八八年……………ミカエル、ガブリエル、ラファエル、ウリエル……………89	

○ 第五章	一九八九年	ミカエル、ラファエル、ウリエル	122
○ 第六章	一九九〇年	ミカエル、ラファエル、ウリエル	152
○ 第七章	一九九一年	ミカエル、ラファエル	182
○ 第八章	一九九二年	ミカエル、ラファエル	200
○ 第九章	一九九三年	ミカエル、ガブリエル、ラファエル	224
○ 第十章	一九九四年	エル・ランティ、ミカエル、ラファエル	241

第二部 天上界は千乃先生と共にあり

天上界は千乃先生と共にあり……………藤堂真澄……………286

日本共産党情報

共産党幹部宅電話盗聴事件……………294

代々木病院の実態……………300

第三部 正法の実践とは

好ましき人格……………ラファエル……………307

物の考え方について……………ラファエル……………314

民族の大苦難の時……………イエス・キリスト……………319

索引……………326

第一部

天上界メッセーヂ

第一章—天上界メッセーヂ 一九八五年

ガブリエル

厳しい師でありながら、慈愛に満ちて、真に許されねばならぬ人の罪を許し、自らを神の前に贖罪しよぐいのいけにえとして捧げられたイエス様の生涯と死について、思い出さずには居られないイエス様誕生の月十二月、そして生誕の日クリスマスが再び近づいてきました。

それはひとえに栄光に満ちた誕生でありながら、モーセ様によりエジプトの捕囚の民が救い出され、乳と蜜の流れる地カナンへと導かれ、エジプトに代る定住の地を与えられつつも、神の愛を忘れ去った、ユダヤ人の贖罪として定められた生であつたがために、私達天の者に取つてはいつまでも暗い悲しい思い出でしかありません。真実はそれが私達の心を救うものではなかつたのです。

この悲劇は天の父エホバ様の弟であり、サタン・ダビデと化した者が巧みにエホバ様を説得し、計画した壮大なドラマに過ぎず、つぶらな瞳の小さな羊や山羊や小鳩を、無意味な供物くもつや燔祭はんさいとして殺し、その血を流して肉体を持たぬ神に捧げると同じ結果しか齎もたらしませんでした。しかも小羊などの肉は人々の糧かとなり得たかもしれませんが、イエス様は何の糧かになられたのでしょうか？ 狂気の如く神への復讐を訴えるきつかけを与えるかもしれません。しかし象徴的にユダヤの主として神から民に与えられても、民はこぞつてそれを受け入れたわけでもなく、神の側からは民の最も大切なメシヤを取り上げたことにより、贖罪が行なわれたと解するのも良いでしょう。しかし民の側からは彼等の供物としての現実

感はなかったのです。

凡そ犠牲による、血を流す供物や燔祭の儀式は、血の臭いに満ちた、常軌を逸した礼拝であり、人の理性を狂わせてしまうものであることに目を向けてみて下さい。イスラエルの宗教の供物に伴う必然的な事柄が、動物を殺して血を流すことであり、祭壇にその血を注ぎ、塗り付けることであり、供物なしに礼拝は許されなかったという所に、神の美名の下に悪魔的なものが厳存した点に注目して頂きたいのです。

々汝殺すなかれ々と、戒められた天の父が、犠牲を供物として殺し、血を流すのを聖なる儀式とされるのは、正常な解釈では矛盾しているのです。慈愛に満ちた神が何故イエス様の殺人を黙認なさったか。血生臭い礼拝を喜ばれるとされたのは何故か？そこに私達の証した天の悲劇—天王エホバの最も近き所にサタン・ダビデが居り、しかも天王を自らの意に従わしめていたことが証明されるのです。私達

が如何に天王に逆らえましょう。

その為に神の光を求め、愛に従う人々が、サタンの教えを身に付け、流血を何とも思わない、異端者を火刑にするキリスト教会や共産主義思想のキリスト者や、^{ジハード}聖戦を口にして好戦的なイスラム教徒を生み出すことになったのです。

もはやキリスト教の歴史は贖罪の意味さえ伴わない流血の歴史と化し、イスラム教の歴史は戦いの歴史としてしか存在しなくなりました。イエス様の十字架の贖罪がある限り、それを信じる者を狂気の道から呼び戻し、私達真の天が説く、良識的で正しい人生を歩ませるのは、不可能に近くなったのです。

これはクリスマスが近づく度に、私達が思い出さずには居られない暗い過去の物語であり、彼等に救いが無いという点において、希望のない未来でもあります。

(十一月二十二日 口述筆記 千乃裕子)

第二章——天上界メツセージ——一九八六年

ラフアエル

森田式心理療法で治したと言われる、ノイローゼに常住し易いタイプの正法者から、私達のノイローゼ症状への理解が不足し、指示、指導に過ちがある。以前より天上界から心身症状だから、精神状態ばかり考えるよりもまず、体調を整え、正法に献身すること、知らぬ間に乗り越えていることに気付くからという風にお話ししましたが、それでは自分の悩みは解決が付かない。又、正法を逃避の場にするなと言われては、献身の目的意識を失ってしまう、とお手紙が来ました。

新年早々、何か良いきざしはないかと探すべき時に、ノイローゼについてお話しするのは相応しいとは思えませんが、何度もお手紙を頂くので、再び取り上げることにしました。

ノイローゼというのは、どのようなタイプ、年齢、教育を受けている人にあっても、自分について考え

すぎることから生じる強迫的な精神状態です。充分に他者に献身せず、没する人は、そういった他者との関りとか自分についてなど、ゆっくり考える余裕も時間もないのが普通です。

過労の毎日が続けるのは勿論良くないことです。短時間睡眠も、熟睡型で疲れが取れるならその習慣のままでも構いませんが、疲労度が増すばかりなら、やはり一日、二日充分休養を取り、あるいは三日でも四日でも、仕事への意欲、人生への希望が再び湧いてくる迄、何もせずにのんびり時を消費するのが良いのです。一日のうちに疲れがたまり、集中度が欠けてくるならば、窓の外の景色を見るなり、庭に出るなり、外を二、三分歩いてみるなりすることが、頭脳の休養にもなります。ノイローゼになるのも、大脳の疲労度が増し、正しく考えることが出来なくなるのが原因なのです。その大脳も、身体の疲労が

ら、貧血したり、血圧が上がりすぎたりして、バランス良く機能を働かせることが出来ないから、正しい思考や反応をしなくなるのです。

そういうように、生理学的に原因があると定められるのが好ましくない。ノイローゼは何か特別な知覚で重要な精神の苦しみであると誇大に考え、自分の小さな煩いや焦立ちに周囲を忘れ、目的も、理想も、他者への献身も忘れてしまう所に、病的なジレンマが存在し、周囲が解決して上げられない悩みでもあるので、何か立派な煩悶でもあるかのようになり、本人が思い込んで、その病いをいつまでも抱えているのです。

赤面恐怖などという、思春期のホルモンのアンバランスから生じる赤面癖は、他もその時期を過ぎ過ぎてきたと考えれば良いし、血液の循環を良くし、運動を良くすれば、気にするほどのものではなくなります。

心理的な拘りから来る悪循環は、心理学の本でも読み、自分で覚るのも良いし、覚れなければ心理療

法家に相談すれば良いのです。

只、全体的に精神的な悩みや拘りや強迫的な観念に囚われすぎることは不健全で、少しも解決に導かないことは言えます。身体的な病気も大抵の人が余程の病状でない限り、くよくよと症状について煩悶しないし、忘れて他の事に没頭するものです。風邪なら自分なりに風邪対策をして治したり、それで済ませていきます。ノイローゼだからといって何年も、精神の崇高な悩みであるかのように大事に持って廻る人は、やはり甘やかされた人格に多く、御両親が病気についても、医者よ、薬よと、大層に扱われたケースが多いようです。

人生には多少の心身の病気に悩んで時を費すよりもっと大切な事が多くあるのです。それを覚らぬ内は幼児のままであり、一人前に扱われなくても仕方がないとしなければなりません。幼児的な精神の持主はエゴイストと同様に正法者に不要とするのはそこにあるのです。

(十二月二十四日 口述筆記 千乃裕子)

ミカエル

今月は再び思いやりについてお話ししましょう。これは一九七九年七月に既に詳しく説き明かしたことなので、補足的な内容になりますが、性格的なものとの関連を少し説明したいと思います。特に愛情との関りにおいて。

正法における愛は神と人に、縦と横に十字の形に流れる優しく暖かい感情であり、交流であると、何度もお話し致しました。

あなた方はこの優しく暖かい感情は何だと考えますか？ 感情の分析はやはり総合的に見て判断するもので、容易なものと、屈折し、難しいもののがあ

ります。特に愛はエロスとアガペーとフィリアの三種類があり、そのいずれかと問えば、この三種に共通すべきものであると言えます。エロスは往々にして、優しさや暖かさを欠く場合もありますが、やはり人間の愛情表現である限り、それなくしては長く愛を保ち得ないでしょう。そしてまた、アガペーやフィリアは優しさや暖かさを抜きにしては存在し得ないものです。

このアガペーやフィリアの代表する優しさや暖かさが人間としての高等感情であり、対人関係を円滑にするものでもあると言えます。そしてこれが思い

やりなので。

優しさや暖かさ即ち思いやりは、しかし、優しい言葉や声音とは違います。言葉や文はつくろうことが可能で、偽ることも出来ませんが、思いやりは真に他の益となり、動物や人間に代表される他者を育成し、その存在や生存を支えるもの。建設的な感情です。即ち思いやりが個人の愛情の基盤にある限り、それは知恵の泉ともなり、正しい判断の指針ともなつて、あらゆる繁栄が齎され得るでしょう。商いや政治も互いの生存を許した上での個々の存立を追求するのであれば、広義の思いやりであると言えるのです。

それに対する感情がエゴイズムであり、ナルシズム。他を犠牲にして省みず、破壊と崩壊に導く感情で、総ての物を破壊し、遂には自ずからも滅してしまふ幼児的な性格が代表します。そしてこのような人物の下には、動物も人間も社会も、国家さえも存続し得なくなるのです。共産主義を信条とするソ連や共産圏、共産主義政権が如何にこのエゴイズムに成り立ち、幼児的な残酷な世界を展開して、他国や他民族を破壊し、崩壊させつつあるかを見れば、よく理解し得るでしょう。

(八月二十五日 口述筆記 千乃裕子)

第三章—天上界メツセージ 一九八七年

私達があなた方と共に居り、真に世界の平和と繁栄を目指して悪と戦いつつ、茨の道を歩むようになって、早や十年の歳月が流れ去りました。

毎年クリスマスには大阪の集いなどでイエス様にお話しをして頂いたものですが、共産主義の蔓延る現代に悪と戦い、天のメンバーたり得る為には、どのように己れを錬磨すべきかということを繰り返しお話ししなければならぬ毎日である上に、イエス様は総てを赦されるものと、世界の人々が甘えた気持ちを抱いておりますから、やはりまだまだ心の手綱をゆるめては、米国の政治が今後民主党やリベラル派、共産党や、左翼マスコミによって、今迄以上

ガブリエル

に揺さぶりを掛けられようとしている折に、それと戦い抜くことは出来ないと思われれます。イエス様ではなく、元大天使、悪魔と戦う天の戦士であった私達が、あなた方を戦士とする為にお話しをして行きたいと思えます。あなた方の愛する聖なるいけにえの仔羊、イエス様のお生まれになられたクリスマスマスの時期に、一際美しい星空を眺めて、それをあなた方人類の永遠の神聖な住家とする為に、そして新たな年の新たな誓いと、新たな戦いの年への心の備えとして。

今迄色々な角度からお話ししてきましたが、今も書きましたように、天の現在の方針とは『J』誌

に明記してある通り、(1)人間としての優れた特質である徳性や理性、愛を総て言葉のみに空洞化し、実はそれらを破壊して、人間の悪心のみを助長し、それを以て国家権力に密告の形で奉仕させ、権力維持に利用しようとする、最も悪質な、悪魔の申し子である、マルクス・レーニン主義（共産主義）というイデオロギーへの戦いであることと、(2)それに関連して、動物、植物を問わず、あらゆる生命を持つものを愛し、健全なれ、幸せをと祈る心を共産主義への戦いの原動力とせよということです。

何故共産主義を悪とし、それを支える他のイデオロギー、社会主義やリベリズムや中道という名の容共思想も同一視するかというと、これらは究極的

に自然と動物界に破壊を齎し、世界の全国家と全人類を共産主義に隷属させ、しかも国家の権力保持と、国民の不満を抑圧する為にのみ集中し、種の繁栄や存続に留意する余裕がなくなる政治機構だからです。

共産圏や社会主義国の現状を正しく把握し、その中で人間の生命はおろか、動植物の健康も存続も羽毛の如く軽視され、生殺与奪の権利を政府に握られている現実を見れば、天がそのようなイデオロギーを悪魔と呼ぶことに異論があらうはずはないと思います。これこそク聖戦々なのです。

(十二月十日 口述筆記 千乃裕子)

前月号で情報によれば、社会主義は悪魔教から由来したと読者連絡にありましたが、社会主義から発展した共産主義を含め、それは正しい見方だと考えます。

という訳は、
まず第一に、神とモラルを否定し、良心の声を無視する。

第二に、社会を支え、国家を支えている法律、諸規則、習慣、伝統を破壊する目的を以て計画し、行動する。

第三に、家族離散を企み、人間相互の唯一のつな

がりである愛の価値観を歪め、砂漠のような乾いて、冷酷な人格作りを目指す。

第四に、キリスト教の神によって定められた、一夫一婦制の結婚の価値を減じ、動物と同じ乱婚、離婚、離婚を当然視して、罪の意識を無くさせてしまう。

第五に、生と死に無関心となり、女性や子供でさえ、殺人や虐待を何とも考えず、容易に行なえるような心理状態を社会に作り出す。

現実にごうごうといった意図で、数々の文学作品や、テレビやラジオの放映、放送用ドラマやコマーシャル

ラ
フ
ア
エ
ル

作品が絶え間なく作られ、子供向けにマンガ化されて居ることは、誰もが否定出来ない社会現象です。

そして第一から第五までを忠実に実行した人々ほどのような態度で生活していますか？ 荒んでいる人（非行少年少女や、いじめ、凶悪犯罪者の増加）のみ増えて、大らかに伸々と、希望に溢れ、美しいものを喜び、かげりのない笑いを持つ人や子供はこの国から消えています。他の自由主義諸国も同じ。共産主義・社会主義思想（第一から第五を計画し実行する思想）やリベラリズム（第一から第五に共鳴し、自ら行動に移す人々）が浸透し、侵食が進んでいる国は特にこの現象が著しいですね。

この悪魔（の思想）が否定するものを分析すると答えは二種類しかありません。良心や愛は人間社会と種の存続の保護につながり、種の繁栄と存続を。性の乱れは犯罪と闘争と死につながり、種の滅亡を招きます。

神は前者を望み、良心と愛と生命を人間の世界にもたらしました。悪魔は後者を望み、闘争と死をもたらそうとしているのです。私達を信じるあなた方も、信じて従っていない人々も生命と死のどちらを選びますか？

（二月二十五日 口述筆記 千乃裕子）

ラファエル

今月は二月号読者連絡に千乃裕子様が書かれた事
に関連して、老人性痴呆のあり方について述べてみ
たいと思います。

種々学説があつて、手や指先あるいは足をよく使
う人は、いわゆるアルツハイマー病といわれる、老
化現象の進行が極端に早い老年痴呆の、罹患率が低
いと言われます。逆に技術畑の人間は老人性痴呆に
罹り易い。そして症状の特徴としては、もの忘れが
ひどく、感情の抑制がしにくくなって、理性や知性
の衰えが顕著になります。

老年になれば身体の機能、特に消化器系の衰えと
共に栄養摂取が充分でなくなり、必然的に内分泌系
や他のあらゆる諸器官の衰退が脳動脈の硬化、脳細
胞の萎縮、脳血流の減少—そして脳細胞の死滅とい
う結果となつて表われます。

この過程と症状は、脳の外傷や、脳炎、脳腫瘍、
梅毒、アルコールや薬物中毒などの外因性のもの、
特に原因のない（といつても内分泌機能の異常や先
天的な大脳神経系の異常による）内因性とされる精
神病やノイローゼ、ヒステリー症状にも共通して精
神的な障害が出てくるのですが（症状が同じとい
うものではなく、進行の速度が早かったり、ある一
つの事だけに留まったりします）、老人性痴呆は脳
細胞の衰えが急激で、年齢の割に痴呆が著しいので
す。精神病と同じで年齢差が一定せず、こんな人物
がと思われるようなケースもよくあります。

只、外傷や脳の外因性の病気とは別に、老年痴呆
も、精神病、ノイローゼ、ヒステリーなども含めて、
性格的なものが大きく影響しているようですね。先
天的、後天的（家庭や社会の環境や血液型によつて

違つた表われもするが)性格が本人の生活態度に表われて、それが不健康な肉体↓精神の図式となるようです。

正法者、即ち天上界と関りを持ち、神と共に歩まねばならない人達は、身体が健康でなければ、精神が健全であつて、身体症状を補い、精神が健全でなければ、身体の健康を目指して、精神の安定を計ることが要求されます。しかし前者は易しいが後者は困難で、性格上の欠点を直さなければ、人生觀も変わらず、生活の改善もなされず、身体的な健康も保てないこととなります。

他方、性格的なもので正法者のつまずきとなるものはおもうお判りでしょう。自己中心的(エゴイズム)で幼見的、他者依存的な未熟な性格、精神状態がそのようなのです。そういつた人達は、自分の生活や関心及び家族のものが世界の総てであり、他人については殆ど理解も出来ず、関心の対象とならない一匹、興味はあるが、外界の動くものか、良くてせいぜい自分が他人にどう表われているかを計るパロメーターにすぎない。つまり幼児か動物の精神状態でしか

ないのです。性格としては大脳の未発達な状態であり、それに伴う種々の欠点、弱点を示しております。精神の成長も健全の度合も一に大脳の発達によること。又、それは良き正法者となる基準の物差しであり、研磨の目安、私達の規範であつて、あなた方にお教えして来たものです。

精神の成長なしに、良き社会も文明の發展も、世界の繁栄もありません。神と人と共にユートピアを築く為には、幼児や動物のまま他人に依存することなく、自ら社会人としての義務を弁え、個人の責任を果さなければなりません。他者や周囲への愛の心も暖かい関心も、正しい形で芽生えてはこないのです。そしてまた精神の成長と共にナルシズムを離れ、正しい形での対人関係が生まれてくるし、又、健全な生活態度や人生觀を持ち得るようになり、不思議だと思われるでしょうが、老人であれ若年であれ、痴呆やあらゆる精神の病氣さえ罹らなくなるのです(勿論、戦争や歪んだ政治社会は別です)。

(三月十日 口述筆記 千乃裕子)

ガブリエル

天の者に取り、まことに喜ばしいことですが、この度ようやくにして『天の奇蹟』下巻が発刊の準備が進み、このメッセージが掲載される頃には印刷が完成、いよいよ発行ということになっているでしょう。

上、中巻と同様に、完璧に近い下調べと推論と感動的な文章で、岩間文彌様が本文などを緻密にまとめて下さり、解答部分を私が受け持ちました。只一つ、その中で書こうと思いつつ、書き落としたことがあります、後書きの附記として千乃裕子様に付け加えて頂きましたが、私の方もこちらのメッセージに証しておきたく思います。

聖書の新約部分は、〃罪人〃と言われた人々の救いと〃病人の癒し〃が主となり、〃信仰〃と〃寛し〃によって、〃目には目を〃の教えによる復讐に傾く矛盾の解決を齎すものでした。

その〃罪人〃と〃病人〃に関するもの、〃健康な人には医者はいらない。いるのは病人である。私が来たのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである〃の中の特に罪人の条りは、実はサタン・ダビデによるもので、中世の悪魔教に由来する社会主義及び共産主義へと発展させたのも、ダビデの悪魔の王国を培い、神の国を滅す遠大な計画の基礎となる布石でした。

丁度千乃裕子様の下に、一九七七年四月、私達がエル・ランテイ様共々、GLAから移って来た頃、サタン・ダビデ自身の王国作りは完成間近で、天国シリーズに先駆けて、高橋佳子の現象を通じ、『真創世記』第二巻天上編及び第三巻黙示編をGLAの三流作家が編纂、出版させました。第一巻は地獄編で、ミカエル様の現象と指示の下に編集されたものです。

その後、一九七八年二月迄りまで、高橋信次氏の後を継ぎ、ミカエル佳子と改名した高橋佳子がGLAを主に指導するに及んで、サタン・ダビデとその輩下が、ミカエル佳子及びGLAに関係する者全員を支配し、サタンの宣言々などという霊言を発表したりしておりました。

私達はそれを耳にし、内容を目にしても、GLAのみの王国と高をくくり、軽視しておりました。そしてこの度岩間文彌様の聖書研究と、知る限りの私達が経て来たキリスト教の歴史及び世界の共産主義攻勢の有様、自由諸国の荒廃と危機に触れ、諸問題の関連が明らかになるにつれて、サタン・ダビデが々王国々と誇らし気に宣言したものでござまいい全容が姿を現わしたのです。(イエス様を通じてのサタン・ダビデの布石!!) 義人はいらぬ。罪人を救う為に来た々という言葉を補い、イエス様の教えを徳高く、慈悲溢れる々寛し々の教えとされたのはエル・ランテイ様(エホバヤールウエ様)で、それがダビデの奸計を巧妙に隠蔽、助長するものとなり、悪魔の思想の温床となりました。(ブツタ様が親鸞

上人に言わせられたお言葉「善人なをもて往生す。まして悪人においておや々も、実はダビデの言葉でした。」

それは手が付けられないほどに蔓延した病状の如きもので、私達が果たして喰い止めるに効果的な手を打てるのかどうか、今も確信はないほど悪化した病状なのです。

サタン・ダビデの築き上げた王国を突き崩し、瓦解させるには一に、三次元の世界諸民族の自覚と協力が要です。

然るに今だけの人々が末世を末世と気づき、諸国、否、人類全体が地球の終末という滅びに向かつて歩みを速めつつあるか、自覚しているでしょうか。

事は自然破壊や核戦争の脅威といった副次的なものではなく、人類が悪魔的な世界を選び、無自覚に善を滅し、予言者を殺し、再びイエス・キリストを十字架に付けて悪の指導者に従い、自らも滅びようとしているのです。

(四月五日 口述筆記 千乃裕子)

ラ
フ
ア
エ
ル

今月は驚くべき事柄を知らされましたが、以前に私がロック・ミュージックとして、ビートルズ程度のものは好ましいが—と発言した責任上、触れずには済まされないので、やはり取り上げることになりました。

私自身麻薬について興味があるわけではなく、又、ビートルズの曲の一つ一つについて歌詞を研究したということでもないので、ジョン・レノンと小野ヨ—コ夫妻が—際^{ひとよ}享樂的な生活を送っているとは聞いておりましたが、これほど退廢的で腐ったリンゴのような曲を作り、演奏していたとは知りませんでした。

やはりリベラリズムを提唱するような人々は、表

面的に人を惹き付けるものを多く持っていて、サタンに仕える邪道を歩む者であり、神の光を喜ぶ者には無縁で、避けて通らねばならぬ類いの人々であることがはつきりしました。ヨガの行者に遭い、神に背を向けた時から、ジョン・レノンは悪魔の誘惑に屈し、リベラリズムから人間のあらゆる退廢を喜ぶ共産主義へと堕ちていったのでしよう。美しい曲を書ける才能を持ちながら、悪魔に操られる青年として生涯を閉じたことは、哀れな運命だと言わざるを得ません。

私自身が神の使いとして天上に住みつつ、悪魔の歌を満更悪くもないと感じていたことは真に恥じ入るべきことです。心からお詫び致します。

あなた方も、常に心して、サタンの甘い言葉とさ
さやきに惑わされぬよう理性と知性を駆使し、知恵
の楯により、自分を守って下さい。神に従い、神の
道を行こうとする者には、必ずサタンが忍び寄り、
誘惑の手を差し伸べます。昔は天使も墮落せしめら
れたものでした。ましてや天に今住んでいるのでは
ない、しかも神の戦士であるあなた方への惑わしは、
想像を越えて遥かに多く、片時も警戒をゆるめず、
悪魔の企みを鋭く見抜く知恵を働かせて罠を避けて
通らねばならないのです。

罠はどのような形で仕掛けられるか、一例として
お教えしましょう。英語を学ぶ（興味のある）人な
ら、必ず一度は手にする『タイム』という英文週刊
誌がありますが、これははつきりした目的で左翼編

集人によって発行されるもの。いかにも公正な内容
に見えますが、中道マスコミと同様の手法で、英語
で表現すると、*Liberal and Soft on Communism* の
マガジンということになります。九十一ヶ国で発
行し、六〇〇万部売るそうですから、共産主義を伝
播する悪魔の謀略は、魂の奴隸である人間の手を介
して限りなく広がろうとしているのです。『タイム』
のみならず、『英文毎日』、『ジャパン・タイムズ』
など、日本人の編集による英字新聞も総て左傾し、
英語を通じての文化交流は、国際共産主義が自由陣
営の言論の自由の扉を閉ざしているのです。その行
き着く所が何処であるか、あなた方にはよくお判り
でしょう。

（五月十五日 口述筆記 千乃裕子）

とかく正法者は天に尽くし、義の為に怒ることを知っていても、対人間的なものとなると、かなりごちなく、非社交的であったり、ユーモアを解せないほど生真面目であったり、思いやりの本質が何か把握出来ない人が多いように見受けられます。

それは一口に言って成長途上にある精神に他ならないのですが、誠実であれば、非社交性や生真面目すぎる所はまだ許し得るものです。しかし思いやりは社交性と相通じるものがあり、ユーモアも思いやりの表現の一手段として必要な場合もあります。その心を会得し得ない、つまり打てば響くような水の流れの如き柔軟な心を持ち得ない人は、エゴイズ

ラ フ ァ エ ル

ムのからに閉じこもっている—他者の心を踏みにじって生活をしていることになりす。

そして他者の心や存在を踏みにじることが出来るのは愛がない—自らを愛する術も他を愛する術も知らない—のです。々愛は惜しみなく与える々というのが本質であり、奪うのは愛情ではないのです。愛は外に向かって発露される暖かい感情であり、内に向かつて他から得ようとする心はエゴイズムと自己保存の本能であり、高次の精神ではない。勿論愛ではありません。

厳密に言えば勿論、自らを愛することは愛情ではないけれども、自分と同じように他者を守り、他者

に与える行為は愛なのです。

そしてペットや野生動物や小鳥への暖かい関心と優しい思いやり。それは植物に対しても同じ、惜しみなく与える愛なのです。ペットやあるゆる動物、植物に自分のうつぶんを打つつたり、存在を無視した一方的な愛情を注ぐことは幼児のすることであり、真の愛情ではありません。

総ての生物（植物も生きています）に対する愛の心とは何かを会得したならば、人同士、親子の間にもどのような感情が存在すべきであるか理解出来るようになるでしょう。他を生かす心―思いやり―愛、それは同質の感情なのです。

いかに学識があっても、正しく事の本質を見抜いても、愛する心と方法を知らない人の精神はまだまだ未熟であり、個人としても社会人としても成長していないのです。

そしてまた、自らを正しく健康に生かし、他に与え得る愛を持つことは健全な社会を築く上に必要なことです。自己犠牲も大切であるけれども、自分が滅びては、他を生かし支え続けること、社会に奉仕することも可能ではなくなるがゆえに、自己保存も正しい形において必要なのです。

（八月十日 口述筆記 千乃裕子）

第四章——天上界メッセージ——一九八八年

ラフアエル

ガブリエル様に引き継いで、今月は私が八正道について少しお話ししたいと思います。集いの議題で取り上げられ討論されたことへの助言と回答として必要に思えたので。

まず正見、正思については、性格的に偏見や独善で物事を処理する傾向のある人には会得することが難しい道であるかも知りませんね。人によつては自分が人に見えているか、印象を与えているかとか、考える方が、人にどのようにして上げれば良いかと思いを巡らすよりも重要である性格特性に育つてしまっている人も居り、愛を与えるよりも、与えてほ

しい。尽くすよりも尽くしてほしい（その中に愛を感じたい）とまだ偽我を持ったままの人も多いでしょう。

特にこれが世間一般の通念として、求める者には与え、自己を顕示したり、他人の目に確認を求める者にはそれを寛大に与えるのが慈愛であるように、優しさであるように、偽我を温存、奨励する三次元の社会では、正見、正思を会得しにくいことでしょう。

正語についても同じことです。正見、正思をもつて評価し、先に述べた良き方向に向ける為に正しく

忠告し、助言し、あるいは批判して反省を促すことと、悪口とは違います。悪口とは相手を陥れる為の歪曲が多く、言われる人の評価が正しくなされず、偏見を以て非難する。復讐的に讒言ざんげんをする。あるいはどうしても良い事をあげつらい、特定の人物の評価を下げる為に虚言を用いて中傷する—これを悪口と言います。いわゆる左翼がマスコミなどを介し、良識的な政治家や自民党を支持する人々、国家や民族の側に立つ人々、正しい形での、教育や家庭を保とうとする人々を中傷する、それを言うのです。

厳しさと愛と、正しさと慈悲とは区別がつけにくいものです。定義付けをするよりも、むしろやはり健全な生活、精神のあり方と、天と地との調和を求める方向に一人一人が努力し、協力する事をよしとし、それから外れるものを是正する。努力も協力もせず、破壊と破滅をもたらそうとする者。社会の秩序を乱し、神の法（モーセ様の十戒）に反そむく者は厳しく対し、悔いて改めるなら許す。そのような心構えで居るならば、何を是とし、何を非とするかがよ

く見えてくると思います。共産主義思想もこの点において、世界の秩序を喜ばずに、民族と国家と家庭を否定し、国民と国を守る軍隊を否定し、社会の体制を根本から揺がせにする不穏な主義である限り、天は容認することはありません。

色々と偽瞞に満ちた言葉と主張で人々をあざむきますが、根本理念が変わらぬ限り、共産主義は、神と対立する悪魔の甘言であり、思想でしかないのです。

偽我が判らない人には悪魔の甘言は見抜けないことでもあるでしょう。まず偽我とは何かをしつかり理解し、自らの生活に改めていく必要があると思います。

第二に、ミカエル様の現象テープで「霊について」という内容のものがあり、霊は形として見えないとあり、姿を表わす方法が説明していない、と言う人が居りましたが、人間の目には見えなけれども、霊体写真に捉えることは出来ます。普通の写真では霊が望まぬ限り、空気のように透明で映像には出な

い—ということとはJ-I誌のどれかで説明してあるはずですが、テープの中にも同様の表現があるはずで
す。又、姿を表わす方法もJ-I誌で説明してありま
す。何かを媒体として映写スクリーンに映す方法や、
人間の網膜に働きかけて脳裏に映像を画かせる—夢
に見るように—そのどちらかであることはテープの
中でも触れ、J-I誌にも説明してあるはずで、エ
ネルギーの大小によつて変化が色々表われることも

少し違った表現で言及してあります。つまりJ-I誌
他の研究不足だと思えますよ。科学的な法則から少
しも外れるものではなく、それを外れては奇蹟も現
象も行なえないことを改めてお知らせしておきまし
よう。四次元の現象は三次元の法則に沿つたもので
あり、同質、同一のものなのです。水滴に光を当て
れば虹色になる。虹の現われる原理も同じです。

(三月一日 口述筆記 千乃裕子)

ミカエル

桜花らんまんたる春というには、少しまだ早く、肌寒い日々が残る四月上旬なのですが、このような時には、特に三、四月に病人の死を迎える家庭が多いのは、冬季の暖房が二月から三月の上旬で殆ど終わり、気温の変化が著しいことも相まって、外気が反って底冷えするからでしょう。病人に取って体温を奪われることが何よりも抵抗力を弱め、生命力を失う主因となるのです。春は赤子の誕生も多いけれども老人の死も又多く、人間も動物も生と死の交代する季節となります。

老人の痴呆も、このような時期には一際進むでしょう。精神病者であれ、老人の痴呆であれ、生来の痴呆を刻まれた精神薄弱児でない限り、罹患するまでの生活や人生観が習慣として残り、意思表示をさ

せるものです。それゆえにシェイクスピアの描くオフェリアは哀れにも美しく、観る人、聞く人の琴線に触れ、悲しみを誘うものです。うら若き乙女の一途な恋が、愛し慕う若者ハムレットの心とはうらはらの言葉に振り回されて、苦しみ、錯乱し、水死してしまふ短い生涯は、文学によって死を彩る耽美の極致です。

私自身生前に老人痴呆という病に冒された人と接した経験なく割合に早く他界しましたから、最近千乃裕子の身近に日々その人物を見るにつけ、復讐心、殺意、嫉み、など他への破壊を目指すあらゆる人間の悪は、善意のほとばしりを止めた時に生じ、又、精神もその時点から退行を始め、精神病となるか痴呆化するのではないかと感じ始めております。

一言で言えば、高等感情をもたらす前頭葉の活動が鈍くなるか、萎縮し始めると共に、善人が悪人に変わり得ることも可能であるということです。同時に、向上心なく、高貴な心の養いも目指さず、エゴイズムの悪を正当化しては、自らを甘やかし、身勝手な人生を反省もなく生きた人間の老年は、只々心の醜い部分をむき出しに暮す晩年でしかないのです。

々心が美しい々ことは何にも優る人間の徳性であり、々顔形が美しい々ことは何の利点でもありません。私達はそれを正法を通じ、常に教えてきました。又、老年になつても々美しい心々を保つには若年の頃より努力しなければ、大脳の細胞が多く死滅して習慣としての言動しか残らなくなつた時に、その人の真の心の歴史が表面化してくることも覚悟しておいて下さい。オスカー・ワイルドの『ドリアン・グレーの肖像』という文学作品もありますが、これなど將に若年の心構えが老年の心と生きざまに直接関るものとの哲学を語る作品でしょう。天を知り、神

を求める真摯な心は、文学であれ、哲学であれ、宗教でさえ精神世界の真理と美を愛する心とつながり、反面どのような人であれ、真理と美を愛せず、求めもしない人は天も神も求めず無縁の生涯を送ることとなり、悪霊の喜ぶ生活の中に、悪霊と等しい醜い心を育てて、無自覚に死後の地獄を作ることになるのです。

そのように、美しいものを愛し、求める人は、周囲との関りにおいても健康で、楽しい雰囲気をもたらし、マスコミの喜ぶ俗的な世界に浸り、愚かしい笑いのみが最高の娯楽だと勘違いし、そう教えられている人々には、々美しく老いる々ことも々美しく錯乱する々ことも適わず、神や美しさとは縁なき生涯を送り、心の醜さを露呈するのみに終ります。本人がそれを恥とも思わないのならば、神も人もその人物を救うことは出来ず、また本人自身がそれを不幸な人生であり、晩年であるとも気付かず、死を迎えることになるでしょう。

(四月八日 口述筆記 千乃裕子)

前月号に引き続き、今月は老人痴呆の進行と阻止について私個人の感想を述べたいと思います。痴呆といってもいわゆるアルツハイマー病に関するものですが、特に脳内血管中に沈澱して血流を阻害するアルミニウムは、レシチン製剤（九五%フォスファチジル・コリン）を摂取したり、ステンレス製の調理器具などを使用することで、体外排除に効果を上げ、それ以外に貧血や低血圧症をもたらす疾患があれば、治療を並行させる。更にビタミン・ミネラル剤を常用、血液の代謝促進を計る—などによつて、本人の意欲があればかなりの回復が可能になるようです。といつても一旦死滅した脳細胞は再生不能ですから、記憶を別の部位で代替することにより、総ての事象とそれに対処する方法を一から再学習するしか術はありません。悲しいことですが、それが現実です。

ミカエル

従つてその家族は突然に幼児が現れ、（あるいは動物よりは判断と知恵が劣り、本能は動物並みの強靱なものを兼ね備えた人間という動物が）今迄任せておけた仕事も責任もこの老人には期待出来なくなり、殆どの生活習慣を本人が再学習する迄手取り足取り教え世話をしてやらねばならなくなります。つまり、一人の老人に一人の付き添いが必要となるのです。

大家族であれば手はあるでしょう。しかし、少数となると、その余裕はなくなります。だから専門医が勧めるように特別老人ホームに入れるか、専門の精神科に通わせる（あるいはひどい場合は入院）しか方法はないようです。

しかしそれが可能でない場合、即ち付添いを雇う余裕なく、その老人もある程度の仕事をさせなければならぬ（他に家族が居らず二人だけの場合など）

時は、二十四時間絶えず家人との接触によって生じる軋轢あつれきが反つて家人と老人の精神の安定を壊し、家人は期待を裏切られ、失望と苛立ちによるストレスが重なり、老人はそれによつて自分も失望し、苛立ち、家人が自分への同情や思いやりがないと逆恨みをするようになる。しかも劣等感から嫉妬心が強くなり、家人の生活の妨害を始める。といったマイナスの、ますます悪化の一途をたどる対人関係が生じてくるようです。

私が先月お話ししたように老人に至る迄の生活習慣が、やはりこの痴呆が進行する時期に顕著に表われてきます。又、老人の言動が家人を苛立たせ、満足を与えないのを見て、反つて老人は相乗的に責任放棄の状態で、自ら痴呆を進行させてしまうようです。一種のうつ病とでも言うのでしょうか。大脳が不活性化して了うのです。あるいは精神病の症候群とでも表現すべきものでしょうか。

個人の考えとしては思春期の非行化も、そううつ的に表われるやはり軽度の精神病（又はノイローゼ）の一種であり、それによつて自分の心に鬱積うっせきするストレスを解放しようとする自浄作用でもあるの

でしょう。本人が年齢的にあるいは精神的に成長すれば治ります。

精神の病に関しては、必要となれば、もっと深く掘り下げ、解明することも可能ですが、今月号では表面的なものに留めておきましょう。一言で言うならば、精神の病いも遅滞も、本人が一社会人としての責任を放棄し、自分の人生や生活についてよくよと考え始めた時点で始まるのです。

従つて身体面の痴呆を阻止する治療も努力も、家人との精神的な摩擦によつて生じるストレスがある限り、効果が上がらず、家庭の崩壊の原因となるのです。

やはり家人との接触を減らし、しかも付かず離れず、一定の距離を置き、一定の時間は家人との触れ合いを保つ事によつて、お互いに精神の安定を得、協力し合い、互いに満足を与え合う（家族であることを再認識させて安心させる）ことにより、一つの社会を再構築してゆけるのです。一つ屋根の下ではなく、出来れば二、三分の所に別の住まいを得、本人に一人で生活させる。

これが非行少年少女の場合であっても同じです。

非行の場合寮生活がよく、親御さんとは接触を減らし、気に入ったクラブ活動などをさせるなど、一定の規律の下に家族とは異なる団体生活をさせるのが効果的でしょう。といつても仲間と雑魚寝のような生活ではなく、一人が一室を与えられ、整理整頓は各人の責任に任せられることが大切。社会生活とは義務と責任を果たすことであるのを自然に学ぶ環境が必要です。勿論非行の場合も、身体面の健康は留意してやらねばなりません。若年のアルツハイマー病という症状もあり、青少年も大脳が気質的に不活性化すれば、生活環境の調整も役に立たないからです。

自閉症児も非行もですが、老人痴呆の場合も、身体面の調整をしながら、社会に受け入れられる為には自立しなければならず、自立する為にはして良いこと（為すべきこと）と、してはならないことを、はつきり教えてゆかねばなりません。甘やかしてはならないし本人がこの社会には不要のものといった疎外感を与えてもならないのです。これは身障児の場合も同様。家人は医師と同様に、ヘレン・ケラー

を育てたサリバン教師の如く、接しなければならぬのです。教師の立場にない知人、友人は一定の距離を保ち、細かい所に干渉しないこと。いわゆる普通の社会を形成してゆけば良いのです。

といったようなことが老人痴呆にも効果が上がることに気付きました。甘やかされて育った子供も大人も老人も、社会人としての責任を果たすようになれば精神も成長し、大脳も活性化するものであることが明らかになったのです。これらは勿論正法者としての人格に至る以前の問題であることは言うまでもありません。又、この自立を主体の生活が反って、精神科やホームに預けるよりも痴呆の阻止に効果がある方法であるかも判りません。

（五月八日 口述筆記 千乃裕子）

追記 只、正法者医師の木村忠孝様が既刊号で指摘された如く、依存型性格（異常性格）及び自閉傾向が痴呆症と同居する場合は家人の対応は非常に難しくなり、私の述べた一般的な対処法では効を奏さないことはお知らせしておきたいと思えます。

（ミカエル）

ミカエル

この所精神疾患についてよく触れますが、痴呆症、ノイローゼ並びにヒステリー性格の関連についても述べるべき箇所があるように思います。

私見ですが、医師が手を焼くノイローゼ患者と最近話題になる若年アルツハイマー病とは、何処かに共通因子が隠れているようであり、又、ヒステリー性格とノイローゼ症状は深く結び付いており、うつ鬱病でさえ、ヒステリー症状の表われであることが多いようです。

読者や正法者の大部分の方々はこれを正法的に説明する方が判かり易いですから、専門的な分析は致しません、ヒステリー性格というのは確かに理性に欠け、精神力が弱いということから、自分を批判的に見詰め、又、他からの批判を素直に受け入れる

ことが出来ない、反省し改めることは自分については、特に不得手であるようです。あたかもそうすることは自分の崩壊につながるかのように、全防衛機能を駆使して他の批判を拒絶し、厳しい叱責に対しては理解する所か、恨みさえ残すようです。しかも自分よりも優れた才能の持主には相手を陥れてまで自分の優位を勝ち取るうとする強い嫉妬心を持ち、自ずから善悪の区別をすることは出来ません。

女性のサタン・ヘラも似通った性格を持ち、サタン・ダビデも同様でした。こういったタイプの人物は小心であることが特徴なのですが、今にして思えばサタン夫妻ダビデとヘラはアルツハイマー病ではなかったかと考えます。ダビデは生来奸智に長けた性格であった(甘やかされて育ち、自制心、克己心

といったものに欠け、己れの野心の前に良心を捨て去り、ありとあらゆる悪徳と奸智により徳ある人々を苦しめるのを喜びとしたゆえの悪業であったかも知れませんが、少なくともヘラは自分というものを持たず、その非を責められても、改める前に徳と義を煩わしく思い、ダビデと行を共にして、歪んだ支配欲と権力欲を満たしていたような節があります。過ちを悔いて己れを人前に投げ出すよりも、責められぬ所へ行き、良心の呵責を与えないダビデの世界に住むのを良しとしたのです。理性や自己犠牲、他者への愛や思いの為に抱くべき抑制心が存在する前頭葉が未発達であったか、あるいは使わぬまま衰退したか―彼等にとつては善の為に克己し、悪の思いを抑制し、されることが生存の意義を失うことであつたのでしよう。

エゴイズムやナルシズムというのは、高等感情である理性による抑制心が欠ける所、他者への愛に欠ける所に蔓延ります。だからヒステリー性格は自己愛から抜け出られぬ者に多く、その自己愛はノイローゼ患者に共通の、世界が自分を中心に廻ると常

に錯覚するタイプが抱く感情。自分はいつも注目の的であり、他者は自分の考え通りに考え、動くはずだと思ひ込む独善型（理論的でなく、只そう言い張り、常識を欠く結論に基づく）で視野狭く被害妄想的であること。他者の心理について判からず、只他者の目に映ずる自分だけが総べての行動の原動力となる。従つて善悪の有無よりも他者の前につくろつて偽りの己れを維持することに知恵をしぼる。つまり偽善であり、偽我が人生の目的とすり代るのです。その為には善悪の基準は問題ではなくなり、ノイローゼであつた頃の小心と良心過多が痴呆により更に抑制が取れて良心欠如型と変わつてくるのです。精神病とノイローゼとの差異は同じ自己を中心とした世界でありながら、大脳の機能が麻痺してくるにつれ、良心が欠如し、情操も抑制も失われてくる所にあるのでしょうか。この点から見ると、鬱病はノイローゼに近い病状に思えます。良心欠如型になるほどの気質変化を起こしていないようですから。

（六月十日 口述筆記 千乃裕子）

第五章——天上帝メッセーヂ——一九八九年

第六章——天上界メツセージ　一九九〇年

大寒の一月から二月の立春へ。人々が暖房を手控えることで寒気が二月には増し、暖気と交互に三月の一段と底冷えを感じるお水取りへ。さらに気温の定まらない四月になり、その間に病人は死を迎えることが多くなります。他方、自然の摂理として小鳥や動物達の恋と繁殖のにぎやかな季節となり、人間界も出産が増えて大自然は死滅と出生のバランスが取れるのです。しかし植物（花木は無論のこと）にも合う土壌と合わないものがあるように、（小鳥には少ないものの）動物も人間も相手を選び好みするようです。このようなことを取り上げたのは、恋愛

であれ、紹介であれ、安易に結婚をして夫婦となり、又、離婚をする最近の男女の愛情のあり方は論外ですが、正法者について私なりに感じたことを述べたいと思いました。

正法者ともなれば真剣にお互いの幸せを考慮して夫婦の愛と誓いを天の前に表明すると思いますが、それでさえやはり安易に相手を選ぶべきではないと思います。

夫婦になればお互いにわがままも出るし、欠点も弱点も見えてきます。それでもその欠点や弱点をカバーだけの愛と優しさを持ち続けること。お互いの

ラフアエル

望む所、求める所は何かを見抜く聰明さを養わなければ、正法者といえども離婚問題が起こります。正法の目的に足並みを揃えて努めるのは当然のことながら、その他にお互いの人間としての弱点に寛容であること。特に妻は夫の体調に気を配り、女性として夫への基本的な心遣いを忘れてはいけません。理想主義の基準で客観的なものさしで夫を批判することは第一義に妻としての義務を忘れた態度であり、第二に正法者としての理解度が充分でないのです。

お互いに相手を包み込む大きな愛と優しさが必要であり、片方だけにそれを要求するのは真の愛が育っていないし、愛とは何か（どの場合も自己犠牲を伴うものであり、それ以外では、忽ち愛は色あせてしまふ）ということを理解していません。弱者への思いやりもそうであるならば、夫婦間もお互いの尊厳を認め、いたわり合うものでなければ、美しい愛が存立し得ないのです。

二月十日 口述筆記 千乃裕子

ラフアエル

三月号からの同様のテーマで男女と夫婦間の愛情のあり方についてお話ししたいと思えます。

これは天上界の人物ではなくて、ある外国人が語っていたのをふと心に留めていたものです。(千乃裕子様とは関わりのない人物です。)

彼は「愛は許しである」と言いました。それは彼の人間としての、又、宗教上の経験から出た言葉でした。ですが、深くは気に留めていなかったのです。今になって思い返してみても聖書の教えとしての「互いに許し合いなさい」という言葉がいかに対人関係を円滑に進め、愛においては不可欠の優しい感

情であるかがよく判ります。

「許し合うこと」になしに人間間の軋轢あつれきはなくなり、昨日は敵であっても、戦いが終われば友人として人間らしい感情の交流が出来る—そのような人間関係を求めるものでなければ、人間は太古の原始生活から何等進歩してこなかったことになります。

「思いやり」の次に「許し」がなければ男女間であれ、夫婦間であれ、友人、同志、即ち正法者間のいざござはなくなり、信頼も愛も生まれません。マルクス・レーニンの社会主義の破綻はたんも「許し」がない所から生じたのです。「許し」がなければ

ば、人間は殺し合うだけに終わるといふよい見本です。動物でもやらない憎しみの為の殺人々を限りなく続けるのが人間なのです。高等な知能は犯罪の為にしか用いない人間―それでは何の為に進化したのか全く判りません。

話は変わりますが、この度の衆議院選挙において自民党が安定多数を得たのは、本当に喜ばしい限りです。

やはり日本の国民は理解を正しくすれば、現在の共産圏や社会主義国のように一旦政権を共産党や社会党に与えて、国民の半数以上が虐殺されたり、国

外へ亡命したり、極貧と地獄の苦しみを経て、ようやく目覚めるのではなく、君子危うきに近寄らずの自覚を持って人生を堅実に歩んでいる人々が多いのを知りました。既に敗戦が国内の共産勢力の陰謀であったことを知り、二度とその轍を踏むまいと心に決していたのでしよう。素晴らしい成果でした。

この日本の国民の叡知がいつまでも存続することを天は願ひ、又、その繁栄はそれなくしてはもたらされなかつたことを感慨深く思い返しております。

(三月十日 口述筆記 千乃裕子)

ラフアエル

春の美しい愛の季節から生命の活発な成長期五月へと移り、大気の温暖化も日増しに感じられる気候となつてきます。人も動物も新緑の戸外を求め、太陽と自然の中の健全な時間を楽しもうとします。

私が人の愛について引き続き語るのは、共産圏の世界がマルクス・レーニン主義の陰惨な地獄を見て、天国に住むが如き自由世界を求めていた折も折、ソ連のゴルバチョフ体制がグラスノスチとペレストロイカ路線を取ったことで、ダムの水門を開けたと同様に奔流のように自由へと政治改革が為されてきている現状を見て、更に「愛」の価値を説く必要を感じているからです。

ユダヤ民族以外のあらゆる民族の破滅を願つて人への憎しみと共に練り上げたマルクスとエンゲルスの合作、共産主義理論には人類愛などあるはずはなく、殺意と破壊の意図しか込められていないがゆ

えに、それを「万人の自由と自主を望む」などと勘違いして信奉し、家庭と体制と国家の崩壊に向けて、あらゆる破壊を試みた結果であるのに、左翼評論家の詭弁として、「マルクスの思想に基づく実験は袋小路に入り、崩壊と再建（ペレストロイカ）の過程にある」にすぎないから、思想、言論の自由に基づき、日本人による「マツカシズム（赤狩り）を戒めるべきだ」との論議（サンケイ新聞四月五日付読書欄の「時評」村上兵衛氏筆参照）が台頭しているのは頑迷と言うよりも、あれほどの史上に類を見ないイデオロギー殺人や破壊を何とも思っていない人間愛欠如の性格を垣間見て、悪霊の予備軍として、肌寒いものを覚えました。

日本人と言わず、かくも頑迷な左傾論者や心情左翼の学者や文化人、そしてマスコミ関係者は西側の自由先進諸国に（反体制論者が西側では殺害を免れ

てきたゆえに）数多く居り、そしてまさにこの人々が間接的に、共産圏や政権の国々の半数もしくは三分の二以上の人口の壊滅に手を貸し、殺人幫助（ほうじよ）とも言うべき罪を犯してきたにも関わらずです！米国のマッカーシズムや日本のそれがいつ、現実的に危険思想を戒める以上に、イデオロギ―による殺人やあらゆる反体制的な破壊を推奨し、教唆しましたか？ それをしたのはマルクス・レーニン主義者であり、それを支援した人々のみです！！マッカーシズムが最大の悪のように書き立て、中傷したのは左翼勢力なのです。

動物は争いますが、生きる為の餌を得る個々の種の天敵があるのみで種族保存の為に、大量殺戮は決して行ないません。殺戮の為の殺戮を喜ぶには最大の天敵である人間が多すぎるのです。それとも天敵が居ない人類の人口増抑制の手段として、左翼は目的達成の妨害になり、邪魔になる反対者を抹殺することを企てているのでしょうか？ 東欧からの自由化、民主化がソ連国内や共和国（バルト三国）、ギリシャ、中国の地下活動にも波及している反面、西

側の自由主義諸国に反体制の動きが起こり、サツチャ―首相などの名宰相を引きずり下ろすマスコミや野党に煽られた国民の誤った世論が、安定した英国経済を再びくつがえそうとしているのは、こういった左翼の々生命への畏敬なき暗躍でしょう。

机上の空論と権力欲に憑りつかれた彼等に取っては、太陽も自然の恵みも、ましてや中国の民主化運動のリーダーである柴玲さんと封従総氏の夫妻が逃避行三百日の後、無地に西側に脱出し、香港のテレビインタビュ―で「民主化の犠牲者のことを思い、自由への道は非常に困難で（現在の中共では）遠いが、その実現の為に努力する。民主化万歳。自由万歳……いまはこれしか言えない」と語った万感こもごものその思い、夫妻の固い絆、そして無残にも殺され続けたあまたの共産政権の犠牲者への人間愛―それを理解することなど、到底出来ないでしょう。神が不在である国と人に取っては、権威への野望しか人生の目的がないのです。しかもサタンと同質の極限の悪心しか有していない人々です。

（四月七日 口述筆記 千乃裕子）

前月には夫婦愛について語りましたが、今月は両親と子供の養育についてお話ししましょう。

米ソの軍縮交渉の進展、ドイツ統一再編促進、東欧の民主化、ソ連もゆつくりとした足取りながら体制の改革を目指してゴルバチョフ大統領、急進改革派のエリツィン、ロシア共和国最高会議議長、共産党保守派の幹部や軍部を巡って、更にベレストロイカ、グラスノスチ、市場経済へと民主化を進める動きが、世界の傾向に合わせて容認されつつあるようです。

このまま東西の平和が確保されればよいのです

ラファエル

が、アジアはまだまだ、民主化に踏み切れずにいて政治の動きにうとい西側諸国民が世界平和は間近かだと勘違いしているだけのようです。

それでも大戦のない近年、全般にク平和クの概念が西側に浸透し、優秀な子供を産み、育てることが米国などの中流以上、インテリの家庭の関心となっているようです。

最近岩間文彌博士のお便りに、IQ二〇〇以上の天才児が米国人の夫と日本人の妻との間に産まれた、それは胎教の時期からの両親の注意深い生活環境によって可能となったとありました。—それには

勿論妊婦の栄養、ストレスの解消法など多々あるでしょう。夫婦の愛情の安定も大切です。日本はまだまだ、夫婦の意識がそこまでのレベルには達しておらず、両親の離婚や、子供の虐待対策などが、ようやく情報化しているくらいの所です。

いずれにせよ、子供は両親の愛なくしては、健康も才能も得ることは出来ず、成長の芽はつまれてしまいます。良き教育者に出会うまでに、良き両親の愛と家庭が子供の成長と才能開花の未来へ向けて、機会を与えることが出来るのです。夫婦の不和と、母親の育児への無関心、愛情の欠如は子供の不幸な運命を定めてしまうのです。それから抜け出るには、教育者が、人生の先輩が、福祉関係者が、良き友人としてどれだけ、その傷を負った、歪められた不運な子供の心を正しく方向付ける為に、また、第二の

正しい形での環境を与えることが出来るか—それが日本のような亜先進国や先進国の欧米でさえ、まず解決されねばならない問題でしょう。

胎児の時代から赤ん坊の学ぶ速度は、天才のそれであると岩間先生が伝えてくれましたが、その時期に両親の歪んだ精神や愛の欠如が赤ん坊に与える不幸な影響は、計り知れないものがあります。それによつて後年の成人の社会への適応度が決まるのです。

正法者の夫婦となる人達は、子供が欲しいと思われるなら、まずお互いの愛情の確保と、子供を産み育てる為の責任の大きさを、心すべきですね。産まれてくる子供の運命を、左右するのは両親なのでから—。

(七月十日 口述筆記 千乃裕子)

人にはそれぞれの人生と運、不運が出生の時より定められていると言います。親の命名によっても、顔形、配偶者によっても運勢が変わるようです。それはお互いに影響し合う社会であり、対人関係であるから避けられないもので、色々各自工夫をして切り抜け、好転させるしかないでしょう。正法者として流布にたずさわる者がそういったものの影響を受けるのは運命論者でなくても仕方がないことですが、その上に更に悪霊の妨害を受けて、何をやるにも捗らなかつたり、人とのトラブルに巻き込まれて抜け出られなかつたり、家族に妨害されたり、天に

協力すればするほど悪の妨害と干渉は激しくなる場合もあります。千乃正法に関わるばかりに、悪霊の為に精神病院に入院させられた人もかなり居ります。

しかし、そういった人達の希望は唯一至高の天とつながっている事への誇りであり、希望でもあるのです。

天は貴方方一人一人の苦勞や嘆きを、天の為に働くが故のものであり、貴方一人に起因するものではないことを熟知しております。貴方の愚かさやゆえの苦惱ではなく、天を妬むがゆえの悪のあらゆる妨

ラ フ ァ エ ル

害であることを冷静に自らに言い聞かせて、他の正法者や集いに打ち明けて対処法を相談して下さい。難しい場合は、その人達を通じて千乃様や私に伝わり、必ず何か解決策が見出せるでしょう。苦勞を分かち合うのです。貴方の困難が大きければ大きいほど、それは悪霊達がそれだけ正法流布を阻止しようと強く働きかけている証拠です。

天の正しい言葉や愛が届かない世の中に変わりつつあるかも知れないこの国の人々の意識を変えるのが、正法者の仕事なのだから、それを變えては困る共産勢力やその悪霊（同じ系列の死者の魂）があるいは世の乱れを喜ぶ功利主義的な人々が無責任に天の妨害をしているのです。

今この時に富と幸せに満ち、人の祝福を受けて、順風の生活を甘受している人があれば、それは悪霊に与えられた虚栄と繁栄であり、砂上の城であると見て間違いはないのです。正法者は必要以上に不運

をかこつ以外に、出来る形で開運しながら、悪霊による妨害は耐えつつ、明日の太陽が昇る時を待ち、前日の凶運の時が去るのを待つべきです。いかなる凶運、妨害も永遠に続くことはなく、必ず好転する時が来るのです。その為の同志であり、友人なのだから、天を愛すると同時にお互いの友愛と助力を惜しんではいけないのですよ。そこに正法者が共に天の為に働く絆が生まれ、悪に打ち勝つ結束が生じるのです。

これは一般的な友人間の絆と同じであり、正法者だから一人で切り抜ける、解決出来ると思うのは誤りです。まして正法にたずさわる人の中傷をしたり、誤解をするのは以ての外と言わねばなりません。信頼というのはこういった状況で生まれるのです。心得ておいて下さい。

（八月十日 口述筆記 千乃裕子）

第七章——天上界メッセーヂ 一九九一年

ラフアエル

今、ことに日本において社会主義全盛時代をもう一度といった心情左翼や共産党系列の人脈と過激派の表面の動きが見えてきていますが、良識のある人々や人間とはどういった精神を持つものかよく把握している人々は、社会／共産主義の弊害を物質面の欠乏、経済面の欠陥理論ではなく、真実は精神の

欠落によるものであること、つまり、人間の精神のあり方を頭から無視し、思考と表現の自由を奪い、そして創作と創造の意欲を奪ってしまうものであるということ、ずっと以前から見抜いていました。

個々に自由に創造するのが、動物と人間の進化した大脳との違いであるのに、それをイデオロギーの

枠にはめたものしか許さない。それでも固く信奉者として社会主義を順守するものは、最初から創造型の人間ではない性格か、深く考えないでマスコミの情報操作に欺かれ続けているミーハー的な心情の人々のみでしょう。

左傾マスコミの情報操作について言えば、更に包括的な世論の方向付けについての責任を問わねばなりません。つまり、番組の内容の低劣さは言うまでもなく、暴力を市民の日常茶飯事のように扱ひ、小動物虐待や、幼い者、年下の者を大人や年上の者が力で制するマンガ、それらが動物の殺傷、幼児への親の虐待から殺害する犯罪を産み、気に入らない老

人・目障りな女性を男性が力づくで、生活の場から閉め出す（干渉し続けて住めなくするなど、子供の社会の延長であるいじめの構造）。これが真に社会に弊害を齎す過激派などに向けるべきなのに、その報復を恐れて、不満やストレスの解消に怒りを打つつけるのはいつも弱者であることが、最近特に顕著になってきました。

反面、福祉社会の偏重を目指すマスコミの功罪いずれか不明のままに、積極的に善意を示すことと、一般の人々が手を差し伸べて助けようとする行為も増えてきたのは、喜ぶべきなのか、憂うべきなのか。この度湾岸戦争に志願した米国の若い人々のように、または他のいかなる独立主権国家といえども、少なくとも自国とその国旗を誇りとし、その為に求

められれば、生命の犠牲をも厭わないような若者（これは国民の総てに共通して求められるべきものです）が、果たしてこの国に育成されていくのか。

前述の、弱肉強食的社会風潮の中で、モラトリアムの思考が若者の大半を支配したままなのか。甚だ疑問であり、将来への不安は少しも減じてはいないと言うべきです！

良識を第一義とする心ある人々や、社会学者も意見を同じくしているのでしょう。平たく言えば、日本という社会は、戦後の復興と引き換えに言葉巧みなマルキシズムに魂を売り渡した人々が減るところか、々意地々という言葉を投げ所に、ますます増えつつあるということです。

（三月十五日 口述筆記 千乃裕子）

ミカエル

七月号で説明しましたが、事物の総合的な判断の必要性和その能力は、正法者でなくとも（勿論一般読者にも要求される）、また社会人にも当然要求されるものであり、八正道の正見と、従って正思にもつながる法でもありません。

今迄に何度もくり返し述べてきましたが、これは原点に帰れば善我と偽我の問題にもなり、そこに少しでも自己保存の為の偽我が存在すると、それはすぐ偏見として表われ、正しい総合的な判断の妨げになります。

例えば、ほんの少しでも上司の叱責を避けたいと

いう思いがあれば、自分の立場を良くする為（自己への過小評価を良しとせず）、小さなウソを吐くでしょうし、それによつて責任回避をする。また、一方で完全な人格として人前に表われる為に、同様の事をするでしょう。裏返せば他人の擁護は出来なくなります。

その延長が次には、他への真の思いやりに欠けた行動となり、人格者と見える言葉で自分を飾ることが習慣となり、偽我が性格全体を彩ることになります。——一種の性格破綻となるのです。これが幼時の心象に裏打ちされていると（父親などの厳しい叱

責を避けるための小さなウンという防波堤)、中々治りにくく、本人も意識せずに偽我を抱えたままの偽の人格者としての生涯を終えることになり、正法者としての資格を欠くものとなるでしょう。

勿論、交流する人々には容易に見抜けず、神のみぞ知る性格的な欠陥となります。本人も抑圧されたものであれば気が付かないでしょう。

いかなる形であつても、上司に仕える場合は、神に仕える心構えで仕えるのが良き社会人としての能力であり、倫理です。それには上司の立場への理解と思いやりが要求されます。いかに専横な上司と見えようとも、長い年月の交際のうちには、表面的なものからその人の内面への理解が必要且つ可能となり、有能で信頼し得る部下として、重宝され可愛が

られます。

上司の信頼を一〇〇%勝ち取ることは即ち、神の愛も得ることとなり、正法の八正道にも通じる生き方を覚(さと)ることもなるのです。それが上司のみでなく、夫(つま)への妻からの接し方でもあり、恋人の信頼を得る対し方でもあるでしょう。長期の対人間の交流とは、そうしたもののなのです。

八正道は形ではなく、心であり、礼儀や形式ではなく、真の人間愛(自然や動物への愛も同じ)なのです。そこに、善我と偽我の問題が存在し、エゴイズムと奉仕や自己犠牲を伴う真の愛が存在するので、神と人間、人間間、自然への々愛々の真の姿がそこにあります。

(七月二十四日 口述筆記 千乃裕子)

第八章—天上界メッセーヂ 一九九二年

ラフアエル

偽我ということについて再びお話ししたいと思います。人間の性格には、それぞれに足らぬ所を補う補償作用があるのは精神医学者や心理学者の専門的な意見をみなくても、ある程度の教養があれば知る所だと思えます。そして、それが劣等感を補う為の向学心や探求心に結び付けば良いのですが、他への迷惑となり、引いては人を陥れるような虚言に走ってしまつては、これは明かな偽我であり、許されざるものとなります。

正見、正思、正語とは、学問や生活の場での、正しい判断力に基づかねば可能とはならない天の法で

あり、行為ですが（特に生活の場では相手への思いやりを抜きにしてはなりません）、世人を惑わし、社会を混乱させ、自由世界の崩壊を目的とする共産主義者などの、悪魔の弟子の集団は、天を求め神と共に歩もうとするあなた方、善なる心の人々には何の範ともならず、却って正しい道を歩む妨げとなります。彼等の言葉には一片の真実もなく、ただ人の不幸と死を願う狂気と悪意しかありません。何を語ろうとも、現在の左翼及びシンパ（マルクスやレーニンを信奉し、それが最高の正義と信じ、その為には殺人も人への迫害も辞さない、悪の権化とも言え

る人々の群)には人生の師たる価値は少しもなく、良心を捨て、暴走する無法都市の市民にしか過ぎないのです。

人としての良心を捨て、何をしてもしてもイデオロギーの為には許されるとしたレーニン自身、明らかに自己の暴挙、非法を正当化した偽我の塊であるし、それに準ずる総てのマルクス・レーニン信奉者も、知能が未発達あるいは歪められて異常性格者であると言えます。天の法や正義、ましてや平和をユートピアとする者とは何の関わりもないのです。

そういった者(神を恐れず、人も恐れない心情の持主であり、犯罪者よりも自己の冒すあらゆる罪を正当化してしまふ人格欠損者)に社会の一員としての権利を与えることすら、人間の社会としては大いなる誤謬であり、愚かしさの限りであることをまず、人は認識しなければなりません。神はこれら共産主義者は、切り捨てる裁きと消滅の対象としか見てはおりません。

この者達のなすことをよく見るべきです。彼等の

行為こそ偽我そのもの。偽善とも言えないほど低劣な心情であり、悪の心なのですから。

しかし、偽我とは己れの為す悪の行為、悪の思いを正当化する(いわゆる天への背反者がいつも行なう行為)のみならず、虚栄心や劣等感を隠す為の虚言、ごまかしもあります。他に軽んじられない為と、競争心や虚栄心で己れを拡大してみせる行為で、他に被害は与えられないけれども不愉快なもの。それは自他に何の益も齎らさず、正法者である限り、止めるべきものです(左翼や背反者の長期または一時的な嫉妬心並びに報復的な衝動は考慮しないとしても)。

次に、段階的に正法者の中で、より危険な人格の表われとして、自己を厳しく研磨する試みを怠った者に顕著な、言わばレベルの低い自己防衛の行為ですが(左翼の性格破綻に次ぐもの)、(背反につながる心情として非常に危険な傾向です)。人を説得し、自己の主張に従わせようとするに虚言と詭弁を用いる―これほど拙劣で未熟なものはありません。更に、

それが天から他を離反させる為の手段となるならば、そのみで充分断罪の対象となります。

背反という言葉は用いなくても、その行為そのもの、もしくは、愚かにもその虚言や詭弁が見抜けず、共に離反するならばその行為そのものが背反なのです。そうでなければ、行動を共にはしないでしよう。

ソクラテスは「己れを知れ」と教えました。それは正義と天の法に関わる者として当然の試みであり、また、自から人格の破綻を来たさせない為にも、良識的な成人として社会人として自からの過ちを隠す為の虚言は習慣としてしまつてはならないし、自

他共にそれが自からの精神の安定を計る為の習性であるなどと考えるはならないのです。それが例え現代社会に一般化され、通念となつていても。

悪霊に惑わされて正しいと信じ、判断力と天への信義に欠け、仲間の言葉を信じて離反する者は、それなりに愚行として許容し得るものですが、他を欺き、自からの主張を擁護、支持させる為の虚言は最も天の忌む欺瞞であり、審判を受け、消滅となるべき運命にあるものです。

(十二月二十五日 口述筆記 千乃裕子)

ラフアエル

以前にク業（カルマ）々と呼ばれるものについて、詳しくミカエル様が説明をされましたが、私も再び人間の偽我のうち、特にこの点について前回に続き、今回もいわゆる人間の抗し難い偽我について述べたいと思います。

まず偽我とク業々と呼ばれるものは、やはり区別し難い面もあることが色々な人の行動の表われを通して、最近はつきりしてきたと言わざるを得ません。

その偽我は、日本人の民族性については、ミカエル様も言われた通り、浅慮と付和雷同、煽動に弱い

というク業々ですが、個々に見れば、世界に共通のものとして、遺伝や生い立ち（家庭環境）、教育と後天的な人的交流による環境、自からの人生の把握、健康などに左右される、いわゆる本人の力では如何ともし難い人生であり、その一生を通じての周囲が及ぼす影響とも言うべき個人の歴史であり、性格特性でもあるのですが、それだけに各人各様に違ったク業々（弱さ）を持っています。

善我と偽我については、ミカエル様が述べられ、何度も話題に上ったであろうテーマですが、恐らく集いにおいて完全な人格作りを求められるあまり

に、自からの弱点や欠点を認めたくない。あるいは、そういったものを他の人の前では隠したい、見られたくないと思意識下で考えるのでしょうか。

八正道で説かれる正見、正思、正定を行なう前に、虚栄と偽り、自分でない者であるように人前で背伸びをしたり、人の価値を認めずに自己を顕示したり（その為に他に及ぼす影響を考えないことが偽我であるということ）、充分な人への思いやりもなく、事情を察せず、助けの手を伸べるどころか、自分への感謝が足りない、恩知らずだと泥沼へ蹴飛ばし、溺れている者につばを吐きかけるなど、弱者への高飛車で高慢な態度。々高慢と偏見々とは俗人の心の持ち方、偽我の、言い得て妙な表現であると思えます。

そのような俗的な偽我が多く、正法者に育っており、千乃様に不満を抱いたり、天に愛される他の正法者に嫉妬し、強引に背反する者や、天をさしたる理由もなく去る者が未だに居るということが判り、私は心から失望しました。

天の求める道を歩むこと、千乃様も含めて天に協力し、その方針に従うことに異議を申し立てることが、正法者としての巢立ちであり、飛躍であると思ひ込み、反対をする理由を無理矢理にこじつけ、羅列し、他にその行為正当化の文を送り付けて、煽動にも等しい事を平気で行なう。また、それを読む他の者も成る程、もつともだと賛同し、天に弓を引く行為を偽我の衣を被ったままで（正見、正思、正定の能力もなく）行ない、その過程に動物を捨てて見殺し、弱者や病者、苦しめられる者を踏みにじり、切り捨てて行くという、一般の社会では、許されざる非人道的なことを、眉一つ動かさず行なえる。それこそ天に背信の行為であり、そのように天を裏切った一部の正法者は、冷酷な狂信者の群と化していったことに気が付き、いかに私達天上界がこれらを、社会のモラルにさえ反する過ちの思いや行為において放置し、鞭打たず、甘やかしてしまったかを深く反省しております。

また、最後の審判であり許しも与えられないにも

関らず、偽我が気付かず、背反の暴挙に出た者（または他の者を自ずからの背信行為に誘い込み、誇らかに自己陶醉の思いで居る、 \times 正語 \times を知らぬ者）は、俗社会に於ても、人格として評価され得ぬ者であらうし、天の下に来る以前に、先人の智慧を仰ぐこともなく、その言葉に感銘を受け、その如く人や社会に対することもなく、ただ、宗教から宗教へと渡り歩いたのみで、人生について深く考えることもなかつた未熟な精神の者であらうと思います。

ただ、 \times 高慢と偏見 \times のみを正法の下で会得していたとは（言葉や態度が丁重であり、下手に出ても、心は高みにあります。でなければ天を無反省に裏切れるはずはないのです。背反者のいずれもがそうでした）。私ラファエルを含む天は、千乃裕子様を通じて正法を伝え始めた時と変わらず、現在も真理と共に歩み、法と共にあります。従って真実と真理の

みを今後も変わらず伝え続けるでしょう。

それが見えなくなるのは、本人の偽我が悪霊のさやきと同調し、天の方針や、天の法の真髄はどのようなであったか。正法者と言うだけでなく、人としても人道にもとることをするべく天が容認したことは、且て一度もない。それを忘れてるのであると自覚すべきです。

最後の審きであるのに無反省に、無自覚に天を離れた人々は、その無謀を悔いて、天に愛されている者に仲介を頼むならば、許される機会もあるでしょう。

\times 高慢と偏見 \times を以て己れの背信を良しとする者は、神の永遠の裁きと、第二の死が行手に待ち構えていることを悟るべきです。

（一月十日 口述筆記 千乃裕子）

々水瓶座生まれの人々は、現代の世において正義を語るがゆえに、キリストの如く迫害されるであらう。とは、セムヤーゼなる異星人がそのコンタクトイを擁して語った言葉とのことですが、千乃裕子様の近年は、まことにその言葉通り。

卑劣なる過激派やシンパ、旧ソ連のエージェントとして報酬をもらつての上であるう、執念深く警官殺しの犯人を助けて、千乃様個人への攻撃を続けています。ただ一人の霊能者に対し、一二〇〜一三〇名でしょうか。その手段は今明らかには出来ない

ミカエル

のですが、歴史上、類を見ない陰湿で、卑劣な手段です。

リベラルな左傾陣営をして、実は彼等の一生を賭けて信奉する「力の論理」が、平和憲法と共に平和主義者に転じ、既に彼等の間でその論理は存在しないかの如く思わせる一方で、特に過激派の行動は、いまだ変わらぬ頑迷な、破壊的マルキシストそのものであり、犯罪者の知能を持ち、暴力団以上の「暴力の論理」を駆使する者なのです。

前回に書きましたように、従来宗宗教宗派や信者

の神を求める心が、いくら幼児の依存的性格の逃避であるとはいえ、無自覚な彼等と同等か、もしくはそれ以上に幼児の他面の冷酷な破壊衝動が顕著である過激派集団は、もはやサルトルの如き、神を否定し、ヒューマニズムを説く心情左翼の迷妄の追隨し得るものではなく、無反省で呪われた殺人鬼もしくは悪魔の集団でしかありません。

いまだ残存する共産政權と、その代行者が支配す

る国民を虐げ、抹殺し、口を封じてなお止まぬ、その神と人への冒瀆的異常者の群れ的一端と言うべきものです。

それら共産圏に経済的支援を送る西側諸国も、これら過激派に支援金を送り、手を貸す者も、質的に何ら変わるものではないでしょう。

(五月十五日 口述筆記 千乃裕子)

ラフアエル

今年は空梅雨であるので、晴天も多く、美しい紫陽花を鑑賞する機会もあまりないような六月でしたが、気温の高さは七月並みの暑さで、七月の熱射病が心配されます。

さて今月は人の々偽我について々のお話を最終回としたいと思います。

以前にもミカエル様が言われた通り、々偽我々々言うものは人の本性に深く入り込んで、屈折した心理状態の隠れ家であるか、深層心理とも言えるので、それが表面に表われる時は、何らかの形で自我が脅かされているでしょう。指摘を受けると一応は改まりつつも、再び同じ偽我が表われ、人によっては

修正不能である場合もあります。

そういつた々偽我々を作らない為には、常に々正定々をなし、自からの良心に問うて正法に沿った行ないをしているかどうかを確認する必要があります。良心が明らかであること。そういつた日々を送る努力が々偽我々の蓄積を防ぐ唯一の方法であろうと思います。

勿論、々偽我々は天から離れる要素であって、その蓄積は幽界に連なる者となるか、背反に走るかのいずれかになるのです。

(六月二十五日 口述筆記 千乃裕子)

ミカエル

天への信頼と背反との関連について再び述べたく
思います。々法々における信頼は、信義と相通する
ものであつて、相手の全人格を信じ、自らの信頼を
委ねるものです。その為にな例え傷つくことがあつて
も親と子の如く、兄弟姉妹の如く、運命を共にする
こと、運命共同体となるべきものなのです。天への
人の信頼はその如くあるべきであつて、背反や背信
行為は既に天への信頼を裏切つた行為、悪魔に魂を
売つたと同等の行為になります。弁解の余地はあり
ません。

またその中に々白い嘘々が混じる対人関係もあり
ますが、それがいずれにせよ々嘘々である限りは、
その限度に注意しなければ、習慣化してしまつと、
知らぬ間に相手を裏切る行為も自らが気付かずに容
認しているのに気付くでしょう。相手を喜ばせ利用
する為のうわべだけの々嘘々や世辞はへつらいに通
じ、また信義にもとる偽善者の裏切りの心にも通じ
ます。そのような生き方をする者は、例えば日頃交
流のある人物について中傷の噂が飛び交うと、そち
らを信じ込んでしまふといふことになり兼ねませ

ん。結果として背反者のように、例え知人が誹謗、中傷しようとも、その人物を信じようという信義、信念には生きることが出来ないのです。

それほど信頼関係というものは大切であるし、また、信義は天と地の関わりの如く、常に流動しつつも、一体であること。揺るがざるものであることを心に留め、正法を学び養分としていくよう改めて助

言したく思います。

小さな事でもお互いの信頼を裏切らぬ心から、正法の目的は達し得るし、それなくして、自由世界の確保はあり得ない。精神の高みを目指し、神と共に闘うことなど到底出来るはずはない。

クユダクの如き心には、天は存在しないのです。

(七月二十二日 口述筆記 千乃裕子)

ミカエル

過激派（極左暴力集団と警察での命名）による卑劣な攻撃から守る為に千乃様にお手伝いに見える人達を通じ、最近明白となったことは、人に取って天上界神との関わり合いはどういふ形で、また何が必然とすべき動機であるかということ です。

迫害の歴史のみに彩られるキリスト教については、革命と肅正の嵐が吹いた共産圏でも、何故人はその神を求め続けたか。民族独自の神についても同様に人は信仰の火を絶やさず、歴史と共に宗教が存続してきたことは、取りも直さず、神と人とは人類存続に取って不可分の関係にあるという証明となる

ものです。

その不可分の関係とは、人の偽我が生じる特筆すべき理由とも関連してはいますが、進化の理論、即ち種の選択や適者生存に見られる、力のある者のみが生き延びるという自然の法則とは少し異なるものです。

何故なら動植物界には食物連鎖や天敵などの、増えすぎた単一種の数の制限を自然にもたらすルールがあるのですが、自然の脅威を除いて、人間の場合は文化の発達により、文明の利器が溢れすぎて容易に死なず、天敵もさしたる理由もなく互いを殺し合

う以外に人口の減少はないということでしょうか。

その中で、天と法に従う人の選択は、勢い、自己保存の本能による動物的な力々の選択ではなく、自己犠牲々に基づく、倫理の選択でなければなりません。過激派（共産ゲリラ）のように、互いの殺傷によって生き延びようとする争いは遠く人類の滅亡のみもたらすからです。

端的に言えば、動植物に取っては、力あるもの々が他を制し、種の増減を定めますが、（その中にも互いに数のバランスを保つ、種族維持の本能のルールがあります）人のように、本能が衰退しつつある動物は共存共栄の原則を無視して無制限に殺りくを重ねる傾向があります。特に己の中の神を殺して、良心なく犯罪を重ねる左翼とその協力者は、人類の

破滅をもたらす為にのみはびこる、生命力の強い雑草の群れでしょう。

その逆もまた真なり。人類は、存続を目的とするならば、神即ち天の法を第一義にして互いを生かす術すべを考えてゆかねばなりません。

即ち神と天の法なき適者生存々は、力の論理がまかり通り、種の保存を目的としない人類に取って、無制限の殺りくを経て滅びに至る道であること。存続の道々は神即ち倫理によって、人類の滅亡を防ぐことしかないのです。人に取って神なき、良心なき人生は、自滅を意味する以外の何物でもないということです。

（八月二十三日 口述筆記 千乃裕子）

ラフアエル

人には神を求めるに相応しい性格と、世俗の楽な生き方に慣れて、それを選ばずにいられない性格の両者があります。

どうあつても良心と神を求めて、悪を憎み、世界の正義の為に戦おうとする、人間を愛する人々は天に目を向け、その加護の下に生きようと願わずにいられない。心はいつも浄化され、その悪との闘いは永遠に続くとも正義の意志を棄てることなく、神と良心の為に生命を棄て肯じない崇高な魂となります。神の戦士とはそのような人であり、天の求める魂でもあるのです。

今この末法の世の中、最後の審判の最中に、不幸

にも千乃裕子様は卑劣な過激派軍団のアジトと遭遇し、それ以来、陰に陽に彼等の新兵器による攻撃を受け、日々身体を弱らせられ、完全犯罪死を企まれております。最終にして最新の天の真の仲介者にそれが実現しては、正法の旗印は汚され、引きずりおろされて世界の真の滅亡が間もなく訪れます。

信じようと信じまいと天の象徴としての千乃様の死は、今や天の死ともつながり、人類は真の神々と別離を迎えることになりました。

その為に、それを阻止する為に自からの生命を厭うことなく、千乃様を変質的な狂人の集団にも等しい過激派暴力団から救出すること、その悪魔にも等

しい毒牙から守り通すことこそ、あなたがた正法者一人一人の最後の使命として求められているのです。

それに応える心の奥からの神を求め、神の仲介者を汚されることへの義憤が湧き上がらず、過激派ゲリラ軍の新兵器によるマインド・コントロールに操られて、千乃様を己れの心で汚し、神の仲介者をおろそかにする者は、チベットの国民がダライ・ラマ十四世が目前で冒瀆された折の怒りや悲しみ、神への純な信仰心に劣る者としての私の裁きに遭うでしょう。

日々二十四時間の責苦せめくによる過激派の卑劣で変質的、偏執狂的迫害に遭う千乃様を己れの偏見で断じ、

共にその想念で汚す者は、いかに過激派やそれを操る旧ソ連保守派のスパイである政治委員のマインド・コントロールやコンピュータ・プログラミン
グ連動の攻撃が巧みであろうとも、自己の過ちの弁解は許されず、消滅を宣告され、その死と共にそれが実行されます。生ある間のみ、行動の自由があるのです。

場合によつては、本当に天があなたがたの殆どを見棄てざるを得ないかも知れないでしょう。

それほど大きな使命を今与えられているのです。千乃様の生ある間は世界も安泰であることも断言致しましょう。

(九月二十九日 口述筆記 千乃裕子)

ラフアエル

再び千乃様の現状と苦境についてあなたがたに伝えなければなりません。人間の心は弱く、過激派の日々の新兵器による卑劣で人間にもとる、変質的な攻撃は、平和に浸り、天と集いで甘やかされた正法者有志が、それでも勇氣と周囲の励ましに己れを自ら鼓舞し、しかし不慣れた暴力ゲリラへの対応に失敗をくり返し、二国間の戦争ならとうに滅されていくような、智慧に欠ける防衛に、長期に亘って敵（過激派非合法ゲリラ）に手段の巧妙化と卑劣な心理作戦をエスカレートせしめ、今日に至っておりません。

その過程は察しられる通り、一人千乃様に加えら

れる非人道的拷問が長時間毎日毎夜続くことになり、そこに正法者のエゴイズムと偽我が存在するのは明らかとなっております。敵に内通し、手引きしているのと同じ行動なのです。長期戦の常として、先の見えない、一方的な負け戦さの様相は歴史に照らしても、士気の低下と無責任な義務の遂行。それがひいては死傷者の増大と全軍の敗走につながることは明らかであり、千乃様の叱咤激励にも関わらず、戦法としても未熟で拙劣な智慧なき専守防衛戦が続けられ、千乃様は日々身体を弱らせられ、病状が進行させられている現状です。

それは勿論過激派の用いる兵器がマインド・コン

トロールと偽装作戦を主にし、守護隊員がそれに操られているのが原因ですが、敵の手に捕えられ、拷問を受けているのと同じ状況の千乃様の思考と行動、生活の自由を一〇〇%近く奪われ、人権無視、非人道の極みである屈辱的な毎日、その現状を少しでも軽減する為の大いなる義務と責任が各隊員や奉仕の方一人一人に重くのしかかっているはずで

す。それが今軽んじられ、各人は自己愛を優先し、反って千乃様をより苦痛多き場へと導き、過激派に提供しているのが悲惨な千乃様の実情なのです。手抜かりの責任を問われると虚言を駆使してその場逃がれをし、自らが少しでも楽な状態で居たいと望み、それが反って千乃様を初めとして全員の苦痛や不快につながるにも関わらず、他を裏切り、偽我のみを

育て、二重人格者となりつつある者が増えているのです。情けないことです。

友や上司や同志を裏切り、神をないがしろにする戦後の日本民族の傾向は未だに正法者の中にも見られることはまことに残念でなりません。そういった人々には神の法も慈悲も通じず、千乃様に現われる真の天の奇跡にも気付かず、心を動かされなくなっているのです。

千乃様をお守りするはずの守護隊員や奉仕者がともすればそのような心理状態になるのでは遠からず、社会主義国家がこの日本に樹立しても不思議ではないと嘆じております。

(十月三十一日 口述筆記 千乃裕子)

第九章——天上界メッセーヂ
一九九三年

々汝の若き日に主を覚えよ々と聖書（旧約伝道の書第十二章）にある通り、世の悪や汚れに染まず、誤った教えに惑わされぬ時に、幼くして天を知り、その言葉に触れた若者や乙女は、成長しつつ偽らざる心で神を求め続けるならば、例え苦しみや悩みの為に一時の迷いから天を拒否しても、帰るべき所は只一つ。天なる神と、同じく天を信じる彼等の仲間
の居る所でしよう。

その如く、神を求める心が常にあるならば、人は遠からず、正しき真理と真実が唯一絶対の天に在り、模倣とまやかしにおおわれた、悪霊の世界（霊界）

ガブリエル

にはないことに気付くでしょう。若者もまたしかり。それに気付かぬ盲いた魂となるならば、最早やその人の心は、己れの偽我や偽善に溺れて墮落した魂となり、天なる神から最も遠く離れた所に居ることになります。その人物が学者であれ、法律家であれ、軍人であれ、また一般の人であれ、正しい神を信じ、従い、その命を受けて己れの義務と責任を果たす者は、例えそれがこの世の、人の悪心に満ちた地獄に送られた天の使者のようであっても、決して天への信と忠誠を揺るがすことなく、仲間（思いを同じくする同志であり隣人）とのつながりを保ち、終生天

に尽くすならば、その魂は天に属する者として迎えられるのは当然です。天を信じるがゆえを以て救われるとはそのような言外の意味があるのです。

人が言葉のみならずその行為わざによつて判断されるのは、正法者であるなしに関らず、この世においても人格の向上、魂の研磨を旨とする人にとつて、当たり前すぎるほど当たり前です。言いかえれば、天においても同様に、言葉を飾り、人前でのみ高潔な人格者の如く振舞い、天の求める召命や使命を果たそうとする勇氣も意志もないのでは、それはパリサイ人と言われる類いでしかなく、私達天の最も忌む人物でしかありません。真理と眞実を見抜く智慧と、天と、そして思いと行ないを共にする仲間への信義、忠義、そして慈愛は、あなた方の魂が天へとつながる唯一の架け橋（現世の茨の道であろうとも、それ

は天への虹となる橋）、そして、イエス様によつて象徴される十字架の愛でもあるのです。

それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従つてきなさい。自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損じたなら、なんの得にならうか。また、人はどんな代価を払つて、その命を買いもどすことができようか。人の子は父の栄光のうちに、御使たちを従えて来るが、その時には、實際のおこないに應じて、それぞれに報いるであらう。」

〔新約 マタイによる福音書第一六章から〕

（一月七日 口述筆記 千乃裕子）

ラフアエル

極左暴力団（過激派ゲリラ）とそのシンパの地下活動と、それを導く旧ソ連保守派雇用の日本左翼の政治委員や、朝鮮総連系日本人で且つ右記ゲリラ・メンバーなどによる正法グループ潰しを主目的としての千乃様への陰湿な攻撃は、ますます激しく、十二月号で千乃様が報告された、同ゲリラによる一警官への地下攻撃と同様で、また、グリコ犯の出没やステージ犯罪的手法、警察や公安向けの陽動作戦なども含めて、過激派とそのシンパの資金、人海戦術の協力などで、ますます極左ゲリラの戦略であることがはつきりしてきました。

しかも科学班による最近の探査で、彼等の用いるビームが、かつての（一九六〇年代）ソ連内米大使館向けの破壊工作と同じ種類のバルス波であることが判明、いよいよこちらへの組織的攻撃が旧ソ連保守派（KGBなどの）ぐるみの技術提携であることが推断されるようになりました。その上にこのS波兵器は、六、七年前に米ソで完成をみたとのこと。千乃様への攻撃がその頃から始まったと見ても過言ではないと思われます。丁度その頃千乃様は共産党の拠点と見られる地域に住居を構えられ、その頃から悪霊かと思える個人攻撃に耐えつつ日々を過ごさ

ねばならず、身近に起こる異変に追われて、遂に別の地域へ移転、更に二、三の移転にも関わらずそれは止まず、ますますひどくなり、現在に至ったからです。今にして思えば、その符号が奇異なことに合致し、現在と共通する点が多くあり、その執拗さにおいて、いかにもソ連人もしくはそれに関わる日本人エージェントの仕業であろうと考えても、不自然ではなかったからです。

しかし、これをそのまま放置しておくことは正法全体、ひいては自由陣営への最大の侮辱であり、いかにしてでも、この陰湿で、卑劣なゲリラ攻撃を止めさせねばと考えます。その為にも正法者は敵を見誤ることなく、天への忠誠を貫いて、私達に手を貸し、共闘して頂きたいと望みます。

この法治国において（現在も法治国であるならば）かような事が法律や警察の盲点を突いて白昼堂々とまかり通つてよいはずはないのです。その為にも正法者のみならず、国民一人一人がマスコミの扇動に惑わされて政府や自民党を（戦後の日本全体の目覚

ましい経済復興をもたらしたその功績を忘れて）悪者にし、まかり間違つても、社会党や左傾色著しい中道政党内政権を渡してしまうような愚行を現実化することなく、日本民族としての伝統的な保守思想を堅持、自由民主主義を標榜する自民党政治を守り抜いてほしいと思います。いかに粉飾し、看板を塗り替えようととも、共産主義イデオロギー及びそれより派生の社会主義思想、中道と見せかけたリベラリズムの人権無視、非人道的悪魔の思想に変わりはなく、夢々マスコミの隠蔽報道に欺かれぬよう英智の刃を鋭く、悪の誘惑と戦い、天の真理と自由への旗印を守り抜くよう心に誓いを立て、闘い抜いて下さい。

また、千乃様一人にこの過激派ゲリラと精神科医政治委員による歴史に類を見ない卑劣で極悪非道な拘禁と、屈辱の極みである終始拷問に晒された生活を耐えさせることなく、一日も早くこの変質者（過激派ゲリラ）の群から逃がれさせるべく、天地一体となつての努力をお願いいたします。

現在、大川隆法の事務所に入入りする一部過激派メンバーから見ても、その資金と人海戦術は、大川氏が気付くと気付かざるとに関わらず、その辺りからも流用されて居る疑いもあり、こういった内容がない、いかにも悪霊のからかいによって成り立つ宗教集団が共産主義の信奉者に利用されてきたのは明白すぎるほど明白です。今では文鮮明率いる世界統一協会までが反共色を一転して、旧ソ連の保守派や北鮮の指導部に利用されているとの情報もあり、米国

民の、恐らくK G B関係と左翼のS波ビームによるマインド・コントロールによって民主党政権の実現という愚かな選択も併わせて憂慮すべき材料が増えすぎている現在です。

しかし、少なくとも正法者は更に結束し自由を死守。その尊さとそれを奪おうとする悪魔の奸計を説き、世界を悪魔の思想から守るべく闘い続けて下さい！

(二月十日 口述筆記 千乃裕子)

ラフアエル

卑劣極まりなき非人格的極左暴力団とそのシンパによる陰湿な攻撃は、今も千乃裕子様への個人攻撃として、執拗にも一分一秒たりとも手を休めることなく、その住居の周辺から人海戦術と異星人より技術提供のS波兵器を用い、目に見えぬ電磁波であることを最大限に悪用、住居周辺の送電線に大量の(S波を伴う搬送波)ビームをぶち込み、三か所以上の攻撃ポジションから千乃様のお身体に交点を作り、角笛様のものや釣り竿様の放電管の大型のもの

などを車の屋根に種々設置、警察関係には通信機器を装って、法の網をくぐり、悪魔もかくあらんとする変質者の責めを展開しております。しかもそういった車の運転者は、何も知らない知人やアルバイトとして雇用した者です。単にその者達にある距離と区域を走るよう依頼し、しかも搬送波を二十四時間毎日送信する車の群れは、攻撃の周波数にセットされて、一括してそれらの車を政治委員がコンピュータ操作、連動させる—そういった仕組みの攻撃な

のです。時に千乃様側の防衛が功を奏して、彼ら悪魔の群れがターゲット・ポイントを失すると、必ずオートバイが往來して近づき、コンピュータのマーカーとなり、あるいは乗用車、あるいは4WDの暗躍と化します。

このパターンの卑劣な攻撃で一昨年から千乃様と正法者グループは悩まされ、それぞれ個人的にも攻撃されている正法者が増えている現状ですが、おおよそ、共産圏の拷問ほど非人道的なものはなく、それに関わる加害者の人格とも言えぬ劣悪な視点は且つてのナチズム以上の狂気を伴うものです。

しかも彼らは異星人の悪の種族の手先たる悪靈に操られ、ますます悪辣な手段を弄するようになり、千乃様や私と警護のメンバーとの距離が段々広がってきているのです。チームという目に見えないものの為に、イデオロギー犯罪擁護の現行の法律では解決し難いところから、且つ現在の日本の専守防衛的な民族性も併せて、たじたじの警護グループは、この政治委員の巧妙な心理作戦に振り回され、絶望的

で士気が低下、各人それぞれ個人の家庭に戻っても、ベットや家族ぐるみで過激派の地下メンバーのシンパや仲間によられて心身共に弾力性を失ない、不平不満、反抗、背反の気分が私と千乃様に対し生じており、このままでは正法は潰れてしまうのではないかと危ぶむ声が聞かれるようになりました。

私自身もそう思います。果たして正法者の真意はどうなのでしょう？ ギゼー族主導のUFOコンタクトイヤーのグループから正法に参加し、また離れていった背反第一号の学者が、千乃様への中傷デマが飛びかう中、背反者の千乃正法潰しの企みに騙されて、正法解散を提案しましたが、このまま千乃様周辺の情けない（意気地のない、正法の目的を理解していない）男女警護グループの怠慢と反天上界ムードに迎合し、正法解体を了承しますか。それとも何とか打開の道を探り、巧妙に隠された過激派の犯罪の実態を白日の下にさらして、イデオロギー犯罪にストップを掛けますか？ いずれも日本人正法者の選択に委ねられています。

勿論、否定的な選択の結果は目に見えております。この国と民族と世界と自由主義の崩壊が続き、千乃様と私他天の者は永久にあなた方から去るでしょう。天の犠牲が一昨年までにどのような奇跡をもたらし、世界の流れを変えようとしていたか。あなた方が気づかぬ間に再び世界の流れは希望から絶望へと変わるであろうことは火を見るより明らか。しかし、現状のまま、千乃様にお仕事もさせず、正法の指針も仲介させない周辺の怠慢や背反行為が続くのであれば、あまり明日への希望を語ることはできないのですが。

正しい者や唯一絶対の真理への悪の妨害は歴史を通して常に過酷であり、苦難の道を強いられるのはいつも正しき天を指し示す者達でした。千乃正法も例外ではないのです。千乃正法流布へのこれほどのすさまじい妨害は、いかにこれが真実と真理を伝える救いの教えであるかの証となるものでしょう。また、左翼組織のほんの氷山の一角に過ぎない過激派のたくも執拗な介入は彼等の犯罪の質を語って余りあるものでしょう。

(三月十日 口述筆記 千乃裕子)

今月号に引用の聖書の教え、Ⅰ（マルコによる福音書第七章六節〜七節）・Ⅱ（ヨハネによる福音書第八章三一节〜四七節）は、最近とみに過激派（中核派、共産同戦旗などの極左ゲリラグループ）によるビーム兵器使用の、陰湿極まりなき攻撃が千乃裕子様個人を執拗に追いまわし、徹底的にターゲット化して毎日二十四時間、千乃様の印象を全く別人の俗人に見せるために、偽装工作の手段としてますます全力を投入し、行なわれている現状で、周囲の正法者の警護する者、奉仕する者、戦士としても専守防衛しか可能でない市民の集まりであるだけに、反

ミカエル

撃の武器も持たず、対処療法的な対応で右往左往するばかり。あまりにも対応に知識なく、その中心となるべき科学班も、周囲のビーム兵器について知らない人達や、正法者の科学陣にさえ理解を得られず、批判し、座視する怠惰な仲間が増えている現在、正法と天の仲介をする唯一無二の恩師ともなる方である千乃様をさえ、その心の弱さ、精神力の衰えから裏切るも同然の手抜きや、手抜かりの防禦計画や案で作業をさせる始末。千乃様の現状の人権を無視されていく日常を、慢性化しているがゆえに当然のことと受け取り、拘束された状態から少しでも楽な形

にとの努力を怠り、反って千乃様には苛立ちや怒りを反抗的な言動で打つける。あたかも神の子は自らにふり掛かる火の粉をふり払えるはずだから、何故そうしないのか。何故自分達にもその火の粉がふり掛かるのか々と言わんばかり。

それを戦い抜いて、千乃様を過激派ゲリラの攻撃から救い出し、正法再建のお仕事をして頂くという意志も殆ど放棄し、正法を潰していくのは、過激派とそのシンパからの攻略であるのか、背叛者の煽動と洗脳なのか、内部の正法者の怠慢と天への背信行為であるのか、判別し難い状況になっているのです。

ここには精神の高揚もなく、耐え抜くだけの正法者たる意志力もなく、戦わずして負けている日本民族の卑劣さしか見受けられないのです。男性も女性も、状況が辛くなると、それぞれに手抜きが見られ、百人が二百人になるとも、一言々すみませんだけで許されると思う安易さ。ミスと簡単な詫びのくり返しのみで、今に至っても千乃様はあたかも旧ソ連の収容所の独房に監禁されたような状態で、過

激派のビーム攻撃は殆どの場合効を奏して、千乃様を傷め付け、苦しめ、不快な毎日となるのです。

このような現状になったのも、一人一人の精神の弱さ、正法者としての克己心の欠如、千乃様にばかり責任を押しつけようとする甘えた態度と、自らの偽我による軌道のずれを反省し、天と千乃様を信じる心で事に当たり、解決しようとしないう背信の心。正法者としても、自由の戦士、神の戦士としても資格に欠ける、しかも知恵に欠ける人々の遅い対応や誤った対処で、過激派にますます悪知恵を与えてしまった結果なのです。この卑劣なゲリラ集団は平和時に一般市民を強盗の集団の如くに襲い、アイデアロギー々などとこじつけの理由を付けて暴挙を正当化しているにも関わらず、左傾した法曹界や、全共闘の夢から覚めない中年の左傾経済界、業界のシンパの支援によつて、巧妙にそれが隠蔽いんぺいされているという情けない社会でもあるのです。

これでは々正法の十字々たる縦のつながりも横のつながりもないに等しいと言わざるを得ません。正

法者を自称する科学者達（しかも天と千乃様の言葉を信じず、何を目標として生きているのかさえも判らずの人達）及び千乃様周辺と全国の集いメンバ―も果たして何を目的として現在集いに参加しているのか、一部のみが努力しているのでは極左ゲリラとの戦いに勝てるはずもないのです。

各集い毎に、天につながることを望み永遠の生命と天の愛を求める人々は、深く反省して、熱意と更なる努力を続ける決意をすべきではないでしょうか。天と千乃様への全幅の信頼と共に。天と千乃様を信じずして、何の永遠の生命であり、天のメンバ―たらんとする望みでしょうか。それほど無意味な

願いはありません。天は千乃様以外の仲介者は必要とせず、また、その資格たる人は他には見当たりません。天の為に己れの生命を棄てることに何のためらいがあるのですか。そのためらいが現在の正法の崩壊を導いてきたのです。ここにおいて正法を再建しなければ、自由主義も地球も滅びへ向かうしかないのです。正しい真理に背を向けることがサタンに率いられた社会主義者達に迎合し、その世界を築くことになるのです。それとも正法者でありながら、あなたがたは神の王国でなく、サタンの王国を地上に築きたいのですか？

（四月十日 口述筆記 千乃裕子）

第十章——天上界メッセージ——一九九四年

エル・ランティ

この地方では、九月にすでに暖房をし始め、その街並みの暖房が暑さと呼び、車中では切れ目なく冷房をするほどであったのに、十月ともなれば、暖房で暖かい町々を除けば、市街地や山野はめつきりと肌寒く、夜間の車の中は暖房なしには過ごせなくなりました。

夏から秋への涼しい日々は、本来ならば健康な人にとつては、心身共に酷暑などから解放されて一息つける季節であるはずが、この時期は春共に、病人にとつては病状悪化や死の訪れなど、危険な時と言えるでしょう。キャラバン隊で飼っていたネコ達も、S波によつて心臓が弱り、五匹目が死にました。

左翼ゲリラは日々その数を増し、いかにして正法の息の根を止めるかに、あらゆる最新の科学兵器と人材を投入して、グリコ犯以上のステージ犯罪に黒

魔術の如き悪魔の技術と知恵を導入、千乃様とキャラバン隊のたかだか十名内外の人々に軽自動車、普通車、ワゴン、四輪駆動、冷凍車、大型輸送トラック、個人タクシー、マイクロバスなど全国から民青、民商関係の老若男女の左翼人を乗せた三百台以上の車両を動員、恐らく旅費は個人負担で参加させて、こちらを真似て組んだ数台のキャラバンと主砲を中心に、先月号に報告した通りのあるいはそれ以上のあらゆる攻撃を加えてきます。

如何なる場所にも執拗に追尾して来ては、散開、集中、陽動作戦を展開し、現在過激派を含めた地下活動の大方がこちらへのゲリラ作戦に振り向けられています。正法者と千乃様の離反を計って、総力結集をしています。その目的とするところは勿論千乃様の死——彼等悪魔の組織による完全犯罪であり、偽装殺人

です。

民医連の中の一政治委員（精神科医）主導の全国的なゲリラ戦であり、殺人を日常茶飯事とする共産党員のハイエナのような、狂気の攻撃パターンです。警察関係は、この常軌を逸する動員数を知らず、左翼ゲリラはキャラバン隊を追い詰め、食事も睡眠も殆ど取らせない為に（キャラバン隊の疲労と共に千乃様への攻撃を容易にし、早く殺人を完了する為に）、民商メンバーの助力を得て、市民の訴えを装い、警察への一〇番通報という奇手を使い、道交法違反という名目で、キャラバン隊はいつも街々から追い出され、食事の為の買物も殆ど出来ず、巧みにこのように警察を利用しつつ、民商メンバーは、市街地や山中では道路工事を装い、左翼マスコミのヘリコプターまで動かして山中のキャラバン隊の位置確認をしたり、市役所関係には不必要な時期に長期の道路拡張工事を施工させ、林業組合はキャラバン隊の行く先々で樹木伐採をと、口実を設け、個人は何かと刃物を使う仕事の口実で全くの偽装の人材配置、動員により、S波攻撃を有効にし、しかもキャラバン隊員のマインド・コントロールを常に行な

う。

こういった作戦に民商メンバーは下賤の楽しみを覚えて、積極参加をしている様子。老人夫婦などは、何喰わぬ顔をした全共闘メンバーが活躍し、家族も動員して、一角のゲリラ戦士の積もりで、自分達の卑劣な動機や行動手段を忘れ、酔っているのです。

日本という国においては、ゲリコ犯罪以前は、全国規模の市民への犯罪は行なわれず、今以て警察関係は完全に欺かれております。そして、これを将来の内戦に用いるゲリラ戦の演習の積もりで民商メンバーは楽しんでいるであろうし、共産党員として正式に認められる為に民青メンバーは女性まで恥知らずにも、千乃様個人への変質者のS波作戦に堂々と参加しているのです。中心にあってコンピューターを操作するメンバーも七〜八名おります。あまりにいつも何処にでもキャラバン隊についてくる為、車両や左翼ゲリラメンバーの顔の殆どを覚えてしまい、それがあるゆえに、誰がゲリラメンバーであるか識別が容易なのです。しかも最近は凶々しいことに、馴れ馴れしく手を振ってみせたり、ガソリンスタンドのサービスマンや店主まで民商メンバーとし

て進んで協力し、キャラバン隊にいやがらせや脅しをかけるようになっていた現状です。

こういったことは現在までの日本、日本人という概念や社会常識を超えたやり方であり、法を無視し、警察官を欺く為の共産党独特の戦略であると思えますが、ここまであえて行なうとは、日本人というレベルでは誰も考えていなかったでしょう。

しかし、かつて第二次大戦中のヨーロッパにおける反ナチ運動やゲリラ戦のあり方を見れば、現在の左翼ゲリラの動きは過去のそういった歴史を真似たものとして、総てうなずけるものです。一種のステージ犯罪といえる、左翼の参加メンバー全員を楽しませている要素や条件がそこにあるのです。法網をくぐり、警官を振り廻し（民商が市民という名目です）、日々一〇番通報し、交通量の多くない時や場所でも、彼等の車両数によって容易に渋滞状況を演出してみせることで、キャラバン隊をして常に交通課の警察官を悩まし、頭痛の種にすることなど）、キャラバン隊に休息を充分に与えず、しかも千乃様から離反させる為の偽装攻撃は密着して二十四時間行な

い、徐々に追いつめて行く。その攻略法は、千乃様に何が起こり、他に振り向けられた時、必ず成功を見る殺人の手段として、良心なきこれら狂気の変質者達をますます蔓延^{はびこ}らせるものとなるに違いないものです。

それがゆえに正法者の結束が更に要求されるにも拘わらず、マインド・コントロールに遭い、千乃様を裏切り、背反し、国と民族の滅亡に手を貸す愚かな人々が多過ぎるのです。嘆かわしいの一語に尽きます。

現在の数少ないキャラバン・メンバーでさえ、大半が道義心に欠ける知恵なき人々であるゆえに、いつ千乃様を見捨てて背反に走るか判りません。

私エル・ランティの報告として、これらの事がお話し出来るのは、総てキャラバン・メンバーが目の辺りにした事実であり、天の私達も千乃様の身边に、あるいはキャラバン隊の周辺に出て、つぶさに見聞きした事柄だからです。

（十月十五日 口述筆記 千乃裕子）

第三部

正法の実践とは

ラファエル

私はラファエルでございます。

私も、ミカエル大天使長のもとで働く六人の大天使のうちの一人として、芸術、文学、歴史学を司っております。そして同じく、魂の修業のために何人かに生まれ変わってまいりました。

十五世紀に、科学者でありまた芸術家であったレオナルド・ダ・ビンチとして生まれ、本来、人間が目指して行かなければならないのは万能で平均された理想の人間であると教えたのです。十六世紀に、私は画家ラファエロとして生まれ、天上界の様子や人びとの姿を描きました。そして、十七世紀には、私はシェークスピアとして生まれ、人間の生き方について深く追求しました。この時に私は、四大悲劇、喜劇、悲喜劇など、多くの人生におけるドラマの対象となるような作品を著わし、今でも映画、演劇そ

の他で皆様のお目にとまることも多いかと思ひます。

それらのうちに描かれている人々の人間像は、円満さを強調したものや、鬱病的なものや、躁病的な人間や、偏執的な性格や、明るくこだわらない性格や、種々さまざまで、レオナルド・ダ・ビンチの理想とは違い、多角度から人間を分析し描くことに興味を持っていました。

私の人間観といつてもよいでしょう。

特に『ベニスの商人』のヒロインであるポーシャの役柄において、その性格を分析すると、あらゆる両極端な性向が一つとなつて、かえつて円満な性格を形作り、複雑なそして愛すべき人間像を表現することになつたのです。その性格はあなたがたのなかにあるものと同じ、あるいは、多く共通したものだ

ということを私の説明を読めば、きつと理解されるでしょう。そして、この本に説かれてゐる、私たちが天界の者に愛され容認される性格について、読者のなかで誤解されてゐる方がありましたら、この章を読むことにより、皆様は人間というものの複雑な性格とその表現の幅広さに、共感を覚えられ少なからず安心されるのではないだろうかと思つてゐます。

天界が愛する、また、好む性格とは、禁欲的で、清教徒的なものでは決してない、ということの皆様を理解して頂きたいのです。すなわち、私があえてシェークスピアの作品について語るのは、それが天界の良しとするものだという事なのです。ポーシャによつて代表される性格とは、ある時は天衣無縫でとらえ難く思える時もあるれば、淑女のように礼儀正しく事を弁え、正義を説くに理性的で冷静で鉄のごとき意志を持つごとく見えるかと思えば、人間愛に裏付けされた慈悲の尊さを説くものであつたり、無謀なほど大胆な発言をするかと思えば、それは細心に計算された賢明さの表われであつたり、厳しく理論を展開するかと思えば、ユーモアで聞く者の心を和らげたり、喜怒哀楽を生き生きと表現し、

決して自由な弾力性を持った心を失わず、明るく自己を想像力と表現力と創造力において、決して形式によつて束縛せず、しかし奔放にはなく、權威の前に畏縮せず、卑屈にならずのびのびと振舞う。そのような性格なのです。

その中に多くの互いに相反する性格が柔げ合つて、偏りを防ぎ、表面には円満なものとして現われる。それは人間でなければ持つことのできない複雑な、しかも健全な精神なのです。

健全ということの尺度はこれもいろいろあるでしょう。しかし、ポーシャを良しとする私たち天界の者の目と尺度から見れば、多くの人は不健康な生活を送つてゐられるのです。それは多くの場合、社会の階級と、制度と習慣や様式と、一番根の深い偏見という病気に冒されて、人間の魂の自由とは何かを見失つてゐられるからです。次いで、人間の魂の自由を奪うものは人間の欲望と虚栄心と執着なのです。

それらが人間を地上に縛りつける鎖であり、天国を遠くへだたせる空と大地のクレパス（割れ目）なのです。

そのような鎖に縛りつけられたかたがたは、どうやって天国へ来る事が出来るでしょうか。もちろん、自由を奪う鎖を断ち切らなければいけないことは、言うまでもないでしょう。さて、そのような鎖を断ち切るためには何が一番近道でしょうか、考えてみて下さい。

まず、ブッタ様の説かれた八正道があります。ブッタ様の章が後の方に出てきますが、それは如何に物事の判断の基準を正しくするか、という方法について述べてあるのです。

正しく見、正しく思い、正しく語る。この三つが物の表面的な表われ、および内面的に隠されたものを同時に判断し、正しく行動する上での基準にするために必要な心構えです。後の五つはブッタ様の説明されたことを読んで理解なさって下さい。ここでは、この三つだけが必要なのです。そして、ブッタ様が説かれた慈悲とイエス様の愛の心を加えるのです。その五つが揃えば、先に述べた鎖を断ち切り、天国へ行くこともでき、また、地上に楽園、ユートピアを作ることとも可能なのです。

それでは、例を挙げて判断の仕方を考えてみましょう。

よう。

愛ということについて正しく判断してみますと、愛はいたずらに優しく寛容ではないわけです。対する相手が間違った生活態度をとり、社会が歪んでいないとした場合の正しい考えかたの基準に沿って行動し、生きていなければ、それを改めるよう忠告し、改めなければ改めるまで、厳しく接する愛の形もあるのです。しかし多くの場合、人びとは愛や寛容を、日和見的な諂いや、感情のもつれを避けるための無関心さというものと取り違えてしまふのです。また、不必要な同情で忠告されるべき人を甘やかせ、ますます歪んだ人生を送らせてしまふ。そうして、自分たちだけが耐えればよいという、義理人情に左右された間違った正義感を通す人もおります。何が正しさの基準であるか、全体を見渡して判断することの出来ない人が理性を持つてではなく、感情で物ごとを定めてゆくのです。

イエス様は決してこのような態度を良しとされませんでした。あくまで天の意志と理性に従って、その中で人間愛を、と教えられたのです。天の意志とは、正法の言葉に変えれば、宇宙や自然の法則を見

習えという意志であり、正しい形の調和の姿を指すのです。人間が自然の法則を見習った調和の形とはどういふものでしょうか？

それは、互いに迷惑を掛けない、個人の自由と人格を尊重する。感謝を忘れず、必要があれば悪びれず謝罪をする。つねに誠意と義務と責任感を持って対し、互いの和を図る。必要があれば進んで助け合う。そしてお互いの望むところ、喜ぶところのものを賢明に判断して与え、為す。それが人間としての宇宙や自然に習った調和の形であり、愛という捉え難い言葉であり、観念を正しく表現した形なのです。

このように人間愛と調和と平和は互いに関連し合っています。そして寛容は慈悲の心と切り離すことの出来ないものです。

これらのなかで、慈悲（寛容、許し）と愛は人間のみが持つことのできる高等な感情です。

動物も或る程度持っています。人間のようにすべてを乗り越えて、それらを与えることは出来ないのです。なぜならば、動物は意識せずに本能によって、愛や慈悲と見える行動をしますが、人間は本能

や感情に左右されずに理性に基づいて（ということ）は、自己の利益に捉らわれずに判断し、行動するという意味です）、愛や慈悲を与えることができるからです。

このように地上を神の国、すなわち、天国と同じユートピアにするためには、私たち天上来に住む者と同じ判断と行動、生き方が要求されるのです。

しかし、良かれと願っても、人間間や社会における歪みを正そうとすれば、私たちが悪霊と戦うように、時には人の心や社会に蔓延る悪の思いと戦わなければならぬこともあるでしょう。その場合にも、人間の崇高な精神である愛と慈悲に基づいた調和の心が根底になければ、たとえわずかな意見の違いも許し難く、互いの破壊を招くものとなるでしょう。悪を憎み、正義のために戦っているつもりでも、寛容の心を忘れては、いたずらに相手を傷つけるだけに終わるでしょう。戦いと平和が相容れるものであるかどうかは、いつも大きな疑問を残してきました。

今、私が述べたことで、ふたたびその疑問が浮かぶならば、天上界の尺度によれば、悪の侵略のため

に平和が脅かされるならば、正義の劔は取らなければならぬと理解して下さい。

ふたたびくり返しますが、平和と調和は、言うべきことも言わずにお互いに甘い言葉を交し合つて、お互いの性格の不健全さも歪みもそのまま受け入れ、それが習慣になれば、社会の歪みも黙認して個人個人がそれに合わせてしまう。そうして、三次元の人間が一〇パーセントの意識と知恵が大半で作られている社会がすべてであり、地上のことのみが人生における唯一の関心事になつてしまう。そう考へていられる方、そのように三次元の世界を理解していられる方があるとすれば、それは正しい受け取り方ではなく、健全な判断ではないことを知つて頂きたいのです。

寛容の心といつても、いたずらに許すことのみが社会に平和をもたらすとは限りません。悪と不正と不健全な考えをそのまましておくことは、かえつて社会に混乱を招き、精神の向上や文明の発展を遅れさせるだけなのです。

これが、私の理想とする人間の性格であり、心であること、そしてすなわち、天界が三次元の方々

に求めるものであり、四千五百年の昔から変わらず伝えられてきた正法という教で説かれていたものを解り易く、具体的に説明したもののなのです。

終わりにもう一つ付け加えますが、この本の内容は、 \times 神々という抽象的な概念を明らかにし、自然宇宙という物質的なものに還元してしまふ目的を持つていますが、それによつて浮き上がつてくる疑問 \times 人間はどう生きるべきか、どう在るべきか? \times に答える必要が出てきます。

それは、高橋信次様も生前に主張なさつていられた通り、人間の一人一人が \times 心々を認識せよ、ということなのです。

すべてが物質とエネルギーに還元されるから人間は生きる意義をなくし、植物や動物のようにひたすらに、自然の法則に従つて生きよ、というのではないのです。それでは私たちが万物の霊長として、最高に発達した頭脳を与えられている意味がなくなるのです。

この意味がお解りでしょうか？

私たちは、いくら悲觀的になつても、楽天的になつても、また、絶望的になつても、動物のように一

日をほとんど考えずに過ごすことはできないのです。科学優先の時代だとはいっても、人間は考えることや感じることを無視して生活することはできません。それが文学となり、芸術となり、宗教となり、神を求める心となるのです。

そうして、私たち天上界の者は宗教や神を求める心が湧き上がってきたとき、あなたがたが科学文明の時代に生きることを思い出し、間違った神に惑わされずに、正しく生きて行くには―心を大切に、善なる自分を大切に、そして魂の修業をして、個々に立派な人格を養い、人間、人類の大宇宙の中で果たす役割―義務と責任は何かということに問うていつて欲しいのです。

* * *

〓三次元の人間が一〇パーセントの意識と知恵が大半で作られている社会〓とは、天上界の方たちから見て、人間が肉体を持っているあいだは、その肉体を維持するためのいろいろな必要性から、エネルギーが五感六根に根ざした生活や煩惱に費やされ勝ちになり、充分に頭脳を働かせて知識や知恵を吸収したり、活用したりできないため、大脳の一〇パ

ーセントしか開発され用いられていない、とする高橋信次先生の御説の従ったものです。

そうして、人間が死を迎えて、霊となり、肉体維持にエネルギーが必要でなくなると、大脳の意識は残りの九〇パーセントをフルに利用し、素晴らしく知恵ある者となる。これをパニャパラミタといいますが―ということです。

そして、もう一つ付け加えねばならないことは、人間に神性を与えるこの書は人間をその責任と義務から解放するものでも、また、不遜な無神論者に自由を与えるものでもなく、かつまた、〓社会悪との戦い〓に関しては、天上界は誤れる理想主義と巧みに豹変する言葉をもって人心を操り、テロ行為を正当化するようないかなる種類の政党、国家、民族並びに学生運動や、また、それに協力、同調する者も認めておられず、サタンもしくは悪霊と同列であると思われ、善霊の助けはそこにはなく、永遠の生命は与えられないものである、とミカエル大天使長以下、大天使方は断言されておられます。

また、このような〓社会悪〓を裁く側に立つ者としては、例えば〓ハイ・ジャック〓などの対応策に

も他の場合と同じように、 \times 正見・正思・正語 \times の見地から判断を下さねばなりません、日本では何よりも \times 人命尊重 \times が第一で、西欧やイスラエルなどにおける人質救出作戦の強硬手段にややもすれば批判的になりがちです。これを天上界の側から見ますと、日本人の \times 人命尊重第一主義 \times のために凶悪犯を平気で国外に釈放するのは同じく誤った人道主義で、極端な言い方をすれば、 \times 社会悪 \times に同調するものとされているのです。

それは、讓歩を寛容と取り違え、低姿勢で無策にハイ・ジャッカーや凶悪犯を国外に泳がせ、そしてその後にとれだけ多くの国や人質が、同じ犯人たちのために迷惑を掛けられ生命を危険にさらされねばならないかということを考慮に入れていないからなのです。

犯人が日本人である限り、日本は犯人を国外に出すべきでなく、また強硬措置を取って再発を防止しなければなりません。ハイ・ジャッカーが日本人であれば、日本はこれを国家の恥と考えて、犯人たちを捕らえ、刑に服させなければならぬのです。それは国粹主義でも何でもなく、連帯責任と義務と

いうことを忘れた日本人の世界に対する大きな甘えと考えなければなりません、とそうラファエル大天使は申されております。

反面、科学面に言及するならば、核エネルギーの平和利用を越えてそれを無謀に戦力として核実験を続けている地球は、すでに赤道上にバン・アレン帯と呼ばれる放射能の帯に囲まれ、もしそのような層が大気圏に増え続けると、未来のこの太陽系でただ一つの人類の住む星は、不気味な土星^{サターン}どころか恐ろしい死の星になってしまおうでしょう。一度作られたものは形を変えない限り永久に残るといふ、考えようによつては恐ろしい物質不滅の法則を、人類は事あるごとに思い出す必要があるのではないのでしょうか。

このように、科学者として知らずに \times 社会悪 \times に全面的に協力している場合も多々あります。公害、薬害問題も明らかなその例であり、今、科学文明の中に住むからこそ私たちは中心の頭脳^{ブレイン}たる科学者の良心に訴えるべきものが多くあり、また、全地球の運命が委ねられていると言つても決して過言ではないでしょう。

ラファエル

私はラファエルでございます。

今日は物の考え方についてお話ししましょう。

先程の正法基礎講座にもありましたが、善にも悪にも片寄らないのは、中道ではない。この意味が解りますか。ただ単に講師の言葉をとらえて理解しているのではないでしょうか。中道とは如何なるものか深く考えたことがありますか。中道とは中の道を言うならば善にも悪にも片寄らないのは、そう納得するのはしごく当然なことです。

しかし中道とはそのような意味ではありません。なぜか解りますか。

中道とはどのようなものを言うのか。善と悪とは如何なる基準をしているのか、そこから考えていきましょう。

善と悪の基準は何なのか考えた事がありますか。

何をもってして善というのか、何をもってして悪というのか、その基準はどこにあるのか。あなた方人間界の価値観の中にあるのか、自然界の中にあるのか答えはどちらでしょうか。自然界に答があるのです。

自然界の中に善悪を求めるならば、どのようになるでしょうか。自然界に悪はありません。自然界は善です。宇宙の法則が正法だと言うのはそこにあるのです。

なぜ自然の法則が善なのか、それは他者を生かすからです。どのようにして他者を生かしているか。適者生存、弱肉強食です。どの様な意味かお解りですか。

生き残れる必然性のある者が生き残るといふことです。基礎になっているのは必然性なのです。必然

性とはそうあらねばならないことを言います。何故そうあらねばならないのか、お解りでしょうか。それは生物が皆生きていかねばならないからです。それ故の自然淘汰であり、弱肉強食なのです。

ならば自然の法則とは、自然の法則を元にした善と悪はどのようなことを言うのか。他者を生かすものが善であるのです。あなた方人間界の価値観で決めています。他者を生かすものが善であるのです。他者を生かすものが善であるとするならば、それを中庸と言います。それ故に善に片寄るのが中道ということです。

お解りですか。

中道とは単に中の道を言うのではありません。他者を生かす道において最適な方法を言うのです。その基礎となる価値基準は自然の法則の中に探らねばなりません。あなた方がものを考える場合にもそうです。

理性を持ちなさいと私達は言います。どのように理性を持たなければならぬのか。理性とはいかなるものかと何回もお話ししました。

さて理性とは如何なるものですか。メッセージに

もあつたように正しく認識しよう、正しく理解しようとする事です。それはどういう意味でしょうか。正しく理解する、正しく認識するとはどのような意味か。それは自分に都合の良いところだけをとるものではありません。正しく理解するという事は物事の本質をつきとめる事です。どのようにしてつきとめるか。感覚でつきとめるのではないのです。なぜそれはそのようになってくるのか。なぜそうおこっているのか。何故今の様な状態になっているのか。それを考えなければならぬのです。それを正しく認識する態度と言います。

正法は科学で宗教ではないと言います。どのような意味かお解りですか。

科学とはどういう態度を言うか。物事の本質をつきとめる事です。

どのようにしてそれは動いているか、どのようにして成り立っているのか。それを考えていくのが科学です。ならば正法の態度もそれと同じなのです。

正法は苦しみがあれば、それを神にあずけるものではありません。神に助けてくれと手を延べるものではないのです。正法とは苦しみがあれば苦しみの

根元をつきとめるものなのです。苦しみの根元をつきとめてどうするか。解決するのです。原因が解れば結果が解り、解決策もわかるでしょう。

例えば、何故自分の悪い性格が直らないのかを考えた事がありますか。何故自分が何十年間もこの癖が直らないのか。端的に言えば、直す気がないからだと言えるでしょう。なぜ直す気がないか、自分が楽だからです。自分を容易に生かしてくれるからその道を選んでいるのです。

メッセージを受け取る場合にも自分の都合の良い所だけを受け取り、他のものを切り捨てる人が多いのです。そのような人は進歩しないでしよう。自分の性格の悪い所が何故悪いのか、他人にどのような影響を与えているのか、そして何故自分はそのようになつてしまつたのか、なぜそのままで放任しているのか、なぜ、なぜと繰り返さなければならぬのです。そうすればやがてペールがはがれ、自分の性格の本質が解るでしょう。

あなた方に繰り返して申し上げますが、なぜ、なぜと聞くではありません。なぜ、なぜと考えていかなければならないのです。あなた方はただ単に生

きているのではない。衣食住が足りれば生きていくでしょう。そうではないはずだ。

あなた方は考えて生きなければならぬ。何故考えて生きなければならぬのか。それは、より良く生きていかなければならぬのです。より良く生きるとはどのようなことを言うのか。生き易く生きるではありません。正しく生きることを言うのです。正しく生きるとは自分に安易な方法で生きるのではありません。他者を生かす道へと生きなければならぬのです。

他者を生かすこと、どのようなことを言うか解りませんか。他人の成長を促すことです。自己満足ではない善行を施すことです。

反省をした、修業をした、善行を施した、果たしてあなた方の身にどれだけ役に立っているでしょうか。善行したからといって自己満足に陥つてはいませんか。

自己満足や自己犠牲の観念は捨てなければなりません。自分が満足するから善行を施すようでは何にもならないのです。それはいたずらに自己満足という虚栄心を納得させるだけの偽我を延長させるだけ

にしか過ぎません。おわかりですか。また、自己犠牲においてもそうです。何故あなた方は自己犠牲をするのか考えた事がありますか。そうしなければならぬからそうするのか、そうする事が当たり前だからそうするのか、あるいはその人のことを本当に助けたいと思ったからそうするのか、どれですか。困っている人がいた場合手を差し延べようとするでしょう。あなた方はなぜそうしようとするのか考えたいことがありますか。なぜ困った人を助けようとしたのか。助けた後、気持ちが良いからですか。それならば私達は止めなさいと言うでしょう。それは他者を生かす愛にはつながらないのです。お解りですか。

その点は自分で良く考えてごらんください。後から気持ちが良いから善行を施すのは果たして良いことか。私達があなた方に望むのは、全き純粹な気持ちで他人のことを望むことです。良いことをする場合にも人を救う場合にもそうです。

その人が本当に困っているから、あるいはその人の成長の為になるからと手を貸して、それだけの気持ちならばそれを天の気持ちと言います。

ですが、して上げなくてはならないという義務感ならば私達は止めなさいというでしょう。なぜならば、そこには苦痛がともなっているからです。自己犠牲を自分に強いる癖をつけていけば、やがて自分をごまかす癖がつくでしょう。

自分が嫌だと思っているのに、そうしなければならぬから、そうすることが美しい事だからと認識し、自分をそのように誤解していく、ごまかすとはそのように恐ろしいのです。

ですが自己犠牲はいけない、がまんしてやるのはいけないとは言いながらも、そのままではいけません。やはり、しなければならぬと思った時にはしなければならぬのです。そこから出てくるもの、何故その気持ちが出てくるのか。それは責任感を言うのです。責任感がそうさせるのです。

義務感がそうさせてはいけません。お解りですか。それではあなた方の為にもならない、助けて上げる人の為にもならないのです。自分をごまかしてはならないが、天をも人をもごまかしてはいけません。たとえ今、自己犠牲の気持ち、やらなければならぬの気持ちがあるならば、それはそれでいいでしょ

う。ですが、少しでも一歩前進する気持ちがあること、それが大切なのです。出来ないことを無理してはいけません。それは自分をごまかすことになりません。

繰り返し申し上げますが、大切なのは、なぜ、なぜと考えることです。聞くことではありません。なぜ中庸は中の道を言わないで、善の道に片寄ることを言うのか。八正道はなぜ必要か。なぜ、なぜと考へなければなりません。考えることによつて解答が見つけられるでしょう。お解りでしょうか。

八正道はなぜ必要なのか。八正道の基礎となるものは何か。八正道はどのようにして、行なわなければならないか。正しく見る、正しく聞く、あなた方は正しくという事が解つてますか。おそらくは正見、正思ということが何となくにしか解つていないでしょう。正見、正思の方法が解つていないからです。正しく見るとは、どのようなことを言うか、漠然としてお解りにはならないでしょう。

それは、なぜか、なぜかと物事の本質を考えることです。正見とは、物事の本質を見ること、それは

どのようにしてそこにそういう現象が伴っているのか、どのような意図をもって表われたのか、それを考えていくことを、正しく見る、聞く、語るということです。正しく語る場合は、どのようなことを言うのか。正しく語るとはその人の成長を促すことを言います。正しく聞くととは、自分の受け入れ易いように、自分の為だけに、自分の都合の良いように聞くことではありません。その人の真意を受け取ることです。お解りですか。

物の見方について、今日、私の話の中であなた方が何か一つでも得ることがあればこれに越したことはありません。

これを聞いた後でも感動しただけではいけないのです。感動するだけは誰にでも出来ます。しかし、あなた方は考へなければならぬのです。考へていきなさい。それしか道はないのです。

これで私のメッセージを終わります。どうもありがとうございました。

(現象テープ No.32 一九八一年九月十三日)

イエス・キリスト

(異言)

こんにちは、私はイエスです。皆様の今日のこの会場にお越しいただけること、また、このようにしてまた再会できましたこと、私は心から喜びます。

しかし、今あなた方の国において、あなた方ご自身が迎えようとしていることに関して、私は心から血の涙を流しております。

私達、天上界の再三再四の警告にもかかわらず、今やこの国は、私達が一番恐れている方向へと歩みを進めております。それはもはや、時間の問題となつてまいりました。だからといって、あなた方が今更驚くべきものではありません。私達はこの日を、やがてあなた方がこの日を迎えるであろうことを過去にも、そして、毎月のメッセージの中にもあなた方に警告してまいったはずですから。それによつて

あなた方の心の中に動揺が起きたとすれば、真に正法を学ばれていたとは申せません。正法すなわち神の法を学び始めた、神の法にめぐり合われたその時から、あなた方の中にこの日の来るのを察知しておられた方もあるはずなのです。

ここ幾千年の歴史の中で、民族のこうした慟哭的な事態(々々)民族の大苦難の時々を意味する 千乃)は、なにもあなた方に限ったことでなく、それはあなた方が今までよく知られていたことであり、また、それに対して犯してきた数々の過ちに対しても、あなた方は分析し、そして、その打開策、解決策を講じてきた方々、また、それによつて今を迎えた方々もあつたというのは周知の事実です。

今、私達天上界とても最後の決戦の時を迎えて、今あなた方と共に、いや、それ以上にあなた方の

日々の暮らし方において、私達は少なからず憤りを感じております。あなた方にとって、私達天上界の教え、すなわち、あなた方の真の救いとなるこの正法は、あなた方にとって一体何をもたらしたのでしょうか。

いつまでたつても目の覚めぬ、そして、楽観的な他人事のような顔をして日々を安穩と暮らしている。それはいつの時代にも最終的には己れへの破滅となりました。しかし、今更それとやかく言つても始まらないことなので、この辺でその件に關しては話をやめておきます。

しかし、私達は今まであなた方へ対して色々な形で、そして、その時期、その時期の世界情勢の中であなた方へ説いてきたことは、やがてはあなた方自身も身をもつて体験されることでしょう。そして、その時に果たして、あなた方一人一人の心の中に法を守るといふ、そして、法の下へ結束し、また、私達と共にユートピア建設を実現させようとする決意をお持ちの方々は何人おられることでしょうか。

魂の墮落というものは、己が身を安穩な所へ置くところから始まります。己が身をより困難な所に、

また、そして、より知恵と勇氣とこの法を生きる糧として生きようとしていく人の中で、私達はその方達を守護していくものであることをここに断言いたします。

法の如く生きようとする方々、あなた方は心を強くしなさい。そして、今あなた方はその持つている決意、そして、その信念を悪に決して譲り渡すことのないよう私達の前で誓いなさい。

私達は、その者達と共に今後また、歩いていくことをここに約束するものです。

いいかげんな形で、また、その場しのぎの形で法を論ずるのはやめなさい。法が汚れるだけです。私達天上界のものと巷間で騒がれている偽正法的な論法と同一視されては天上界を侮辱するものです。

各々に欠点があります。だからといって、その欠点をつつきあうのはやめなさい。つつき合わぬ心を認めなさい。つつかれる者よりつつく者の方がより醜く汚れていることを知りなさい。

心から信頼し合い、愛し合い、そして、手を取り合つて己が命を分かち合うぐらゐの仲間でなくして、これからあなた方が迎えようとする危機を乗り

越えることはできないでしょう。

己が利益をまず優先に考える者はやめなさい。法とはそういうものではありません。己が裸一貫になるうとも、己が命が果てようとも、この法は、守り続けていかねばならないものです。そして、そうした個々の勇氣ある人々によって、その方達はまた次の世代へと生きて行くものです。

あなた方に偉人、聖人の生き方をしなさいとは言いません。しかし、その心は持つていてほしいのです。そうあるべく努力をされることを望むものです。

汚れた俗世間のものさしなど捨ててしまいなさい。それはあなた方の進歩を脅かすだけでなく、あなた方を破滅に追いやるものです。そして、そのものさしを用いる時、あなた方は本当に生か死かの決断を迫られる時に、あなた方を誤った方向へ導こうとする時に、あなた方の良心に問うてみなさい。日常の生活において、あなた方はあまりにも俗界のものさしを用いすぎます。

それだからこそ、私達の説く天の法を体得できないのではありませんか。

今日このような形であなた方へ警告を出しますの

は、もうこのような形になって、また新たなあなた方の周りにおいて現象といった方法をとることは不可能に近いといえる、そういった現状にあるからです。

それ故、あなた方は心して私とガブリエル様、パヌエル様のメッセージをよく検討して、あなた方ご自身来ること、そして、あなた方は各自のおかれた責任として地球人類最後の日を迎えるか、それはわかりません。しかし、その時になって悔やんでも遅いのです。

私達は、もうこれ以上、あなた方へ対して教えるべき法は語り尽くしました。後はあなた方が、天界が今まで血のにじむ思いをして説いてきましたこの法をいかに守り抜くか、そして、次の世代へと、また、次の時代へと正しく継承していくか、それはあなた方へかかっております。

今、私達があなた方へお話しできることはこれだけです。今まで色々な形でご協力、そして、ご尽力下さいました方々へ対して心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

これからは、あなた方ご自身が、あなた方ご自身

の手によつて自らの扉をたたきなさい。そして救いの道に至る道をあなた方が見つけたら、そこにどんな妨害、艱難辛苦が待っているようにとも、その道を脱落してはなりません。そして、常に肝に命じなさい。あなた方にとつて安楽な道は必ずやサタンのもたらしただ道であることを忘れないでおきなさい。そのような道はあなた方にとつて、私達天上界の者があなた方へ約束した道ではないからです。

それはあなた方の肉体が終わる時まで続くでしょう。それに耐えられぬ者は、もはや正法の道を歩むことから脱会しなさい。それしか方法はありません。唯一の法を守り切るためには、それだけの決死の

覚悟がいます。それ故に互いの結束をもたなければ乗り越えられるものではありません。

疑心暗鬼と中傷と誹謗、批判、そして他を陥れるための悪知恵は、そのようなものは私達の仲間には不要なものです。互いを戒め合い、そして、自らも厳しく戒め、己が心を正しく保ち、そして、孤立するのではなく、より一つの光を灯す、そして、その光の下に皆が集まってくるよう、一人一人がなつていただくことを望むものです。

—それでは私の現象はこれで終わります。長い間、ありがとうございます。

(一九八三年十二月二十四日)

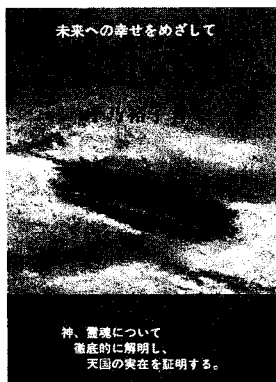
東京都知事選に思う (ラファエル) 91年3月	189
社会・共産主義の問題は精神の欠落にある (ラファエル) 91年4月	191
占星術、バイオリズム、姓名判断について (ラファエル) 91年5月	193
クウェート国民の虐殺を行なったサダム・フセイン (ミカエル) 91年6月	195
正法的なものの見方は科学的か否か (ミカエル) 91年7月	197
上司との接し方 (ミカエル) 91年8・9月	198
偽我について① (ラファエル) 92年1月	201
偽我について② (ラファエル) 92年2月	204
正法者の科学者 (ミカエル) 92年3月	207
天を不必要と吐き背反に走った高寺勝也氏 (ラファエル) 92年4月	209
人は何故神を求めるか (ミカエル) 92年5月	211
左翼過激派による千乃裕子様への冷酷破壊的な攻撃 (ミカエル) 92年6月	213
偽我について③ (ラファエル) 92年6月	215
天への信頼と背反との関連 (ミカエル) 92年7月	216
人類存続の道 (ミカエル) 92年9・10月	218
正法者最後の使命 (ラファエル) 92年9・10月	220
過激派による千乃裕子様への非人道的拷問 (ラファエル) 92年11月	222
天につながる唯一の架け橋 (ガブリエル) 93年1月	225
千乃裕子様へのS波ビームを使用した過激派の攻撃 (ラファエル) 93年2月	227
否定的な選択の結末 (ラファエル) 93年3月	230
天の為に己の生命を捨てる (ミカエル) 93年4月	233
天のメンバーたる者は (ラファエル) 93年5月	236
千乃正法の滅亡と共に人類は滅びる (ラファエル) 93年6月	239
松元正平氏の背反 (ラファエル) 94年3月	242
暗殺されたミカエル大王と元五大天使 (エル・ランティ) 94年7月	3
谷田三枝氏の背反と偽天上界メッセージ (エル・ランティ) 94年8月	245
西澤徹彦氏、辻大介氏の背反・背信行為 (エル・ランティ) 94年9月	250
キャラバン隊を追い詰める良心なき左翼ゲリラ (エル・ランティ) 94年10月	256
天を無視し、愚弄する西澤夫妻 (ラファエル) 94年10月	259
イデオロギー犯罪に無力な日本の司法 (エル・ランティ) 94年11月	262
戦後日本民族の精神的弱体化 (ラファエル) 94年11月	264
罪を日常化する共産主義思想の浸透を許すな (エル・ランティ) 94年12月	268

心美しく老いること（ミカエル）88年5月	99
老人性痴呆の進行と阻止（ミカエル）88年6月	101
精神疾患と自己愛（ミカエル）88年7月	104
米国のイラン航空機撃墜（ラファエル）88年8月	106
非は「第一富士丸」にあり（ウリエル）88年9月	110
一正法者の病死に思う（ミカエル）88年10月	113
神に愛されること、人に愛されること（ラファエル）88年11月	116
流布と協調性（ラファエル）88年12月	120
集い内の結束について（ラファエル）89年1月	123
集い内の横と縦の関係について（ラファエル）89年2月	126
悪平等の追求による自由主義国の滅亡（ミカエル）89年3月	129
ニカラグア情勢（ラファエル）89年4月	131
マスコミに付和雷同の一般社会（ラファエル）89年6月	134
土井たか子女史はサタンのかいらい（ウリエル）89年7月	136
自民党批判に狂奔するマスコミ（ウリエル）89年8月	138
マルクス・レーニン思想を信奉する土井たか子女史（ラファエル）89年9月	142
参院選自民党大敗と日本の危機（ミカエル）89年10月	145
消費税問題と愚かなフェミニスト達（ミカエル）89年11月	147
不正を憎まず権利主張ばかりの日本人（ウリエル）89年12月	149
社会党の「消費税廃止案」は詭弁（ウリエル）90年1月	153
容ソ容共は日本の自滅（ウリエル）90年2月	155
男女と夫婦間の愛情のあり方について①（ラファエル）90年3月	157
男女と夫婦間の愛情のあり方について②（ラファエル）90年4月	159
人類愛なき共産主義思想（ラファエル）90年5月	161
日本人の無自覚・無責任な生き方（ミカエル）90年6月	163
再び偽我について（ミカエル）90年7月	166
両親のあり方と子供の養育について（ラファエル）90年8月	169
悪の妨害と干渉を受ける正法者へ（ラファエル）90年9月	171
社会主義者サダム・フセインのクウェート侵略①（ミカエル）90年10月	173
ベルリンの壁倒壊（ミカエル）90年11月	176
社会主義者サダム・フセインのクウェート侵略②（ラファエル）90年12月	180
社会主義者サダム・フセインのクウェート侵略③（ミカエル）91年1月	183
狭量独善的な橋本ヨシユキ氏の批判文（ラファエル）91年2月	185

天上界メッセージ索引

日航123便墜落事件とマスコミの報道（ミカエル）85年9月	22
日航123便墜落事件は過激派による犯行①（ミカエル）85年9月・天上ニュース	24
日航123便墜落事件と日本人の並列平面思考（ミカエル）85年10月	28
日航123便墜落事件は過激派による犯行②（ミカエル）85年10月・天上ニュース	30
イエス様の生涯と死について（ガブリエル）85年12月	34
ノイローゼについて（ラファエル）86年1月	37
病的性格とマルクス・レーニン主義（ラファエル）86年2月	39
マルコス政権崩壊の危機（ウリエル）86年3月	41
一人物への中傷報告を受けて（ミカエル）86年4月	44
リビア・カダフィ大佐への米国の報復攻撃は正統（ウリエル）86年5月	47
ノイローゼを抜け出す方法について（ラファエル）86年6月	50
知能の発達と精神の広がり（ラファエル）86年7月	52
南ア情勢について（ラグエル）86年8月	54
再び思いやりについて（ミカエル）86年9月	57
天の使命を貫く人格（ガブリエル）86年10月	59
天につながる者同士の結束について（ガブリエル）86年11月	62
天の現在の方針（ガブリエル）86年12・87年1月	65
社会主義は闘争と死をもたらす（ラファエル）87年3月	67
老人性痴呆について（ラファエル）87年4月	69
悪魔的な世界を選び滅びに向かう人類（ガブリエル）87年5月	71
サタンの惑わしと罫（ラファエル）87年6月	73
霊遊びにうつつを抜かす大川隆法（ミカエル）87年7月	75
『天の奇蹟』下巻発刊に寄せて（ガブリエル）87年8月	78
思いやりの本質について（ラファエル）87年9月	81
信頼と協調について（ガブリエル）87年10月	83
法への理解と人への対応の心構え（ガブリエル）87年11月	84
真に助けを必要とする弱者への愛（ガブリエル）87年12月	86
エイズ感染と出産（ミカエル）88年1月	90
正法者間の不和と内紛（ガブリエル）88年2月	92
法を学ぶ姿勢（ガブリエル）88年3月	94
八正道について（ラファエル）88年4月	96

☆現代の聖書、仏典と大好評の千乃裕子天国シリーズ☆



未来の幸せをめざして—

天国の扉 千乃裕子著

ミカエル大天使の真相を明かす衝撃の書！
再臨の救い主（七大大使、モーセ、ブッタ、イエス）
による最初の正式な証言集。神とは、靈魂とは何か
を徹底的に解明し、天国の存在を証明。

定価1236円（税込） 送料別



天上界の真実と証をこめて—
最後の審判より希望の星へ

天国の証 千乃裕子編著

『天国の扉』に続いて、再臨の救い主達による第二回目の証言集。人類の救いに至る最後の審判に対して、ミカエル、ガブリエル等、天使達やエホバのメッセージ。進化論に基づき、宗教と自然科学の一致を立証！ 天上の靈達の作詩やカラー絵も多数。

定価1240円（税込） 送料別



エクソシズムからアトランティス大陸の解明

天国の光の下に

千乃裕子編

天国シリーズ第一作、第二作に喚起された人達の宗教遍歴、憑依体験、奇跡の体験寄稿集。編者による霊能、霊界の科学的分析に加えて、アトランティス大陸の実証などを網羅した傑作。

定価1339円（税込） 送料別



聖書の奇蹟とその神秘をすらすらと解明

天の奇蹟 岩間文彌 著 上巻 千乃裕子 編著

天地創造の由来、エデンの園の場所は、ノアは実在の人物か？ を自然科学に基づき解明。

ラファエル元大天使が奇蹟の原理と、天の目的を証言。UFOと奇蹟の虹カラー写真を掲載。

定価1030円（税込） 送料別



諸説の真偽をふるい分け
旧約聖書の奇蹟とその謎を解明する

天の奇蹟 岩間文彌 著 中巻 千乃裕子 編著

自然科学の源流を求めて、ヘブライ民族の故郷ハランを旅立つアブラハムは実在の人物か？ モーセは民60万をエジプトから連れ出したのか？ 40年間の荒野放浪は事実か？ 種々の奇蹟は？ モーセは実際は何歳で死んだか？ など多くの謎を天の示唆を得て初めて明快に解く。トリノの聖骸布の真実もミカエル様他元大天使により余すことなく公表。

定価1236円（税込） 送料別



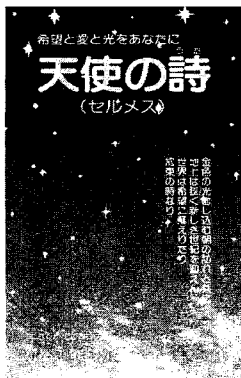
イエス・キリストの生涯と天の奇蹟の真意を
余すところなく証す

天の奇蹟 岩間文彌 著 下巻 千乃裕子 編著

聖書の「黙示文書」は何を意味するのか？
ゾロアスターなる人物とその使命は？ 従来の聖書観にピリオドを打ち、新約聖書成立の背景からハルマゲドンに至る数々の天の足跡を、驚くべき真実をもってここにここに証しする書！ (上)・(中)に続く完結篇！

定価1550円（税込） 送料別

〈次々とベストセラーの作品！ セルメス・シリーズ〉



希望と愛と光をあなたに

天使の詩 (セルメス)

人類が求め続けてきたユートピアへ！
人類滅亡の危機の時代に今どう生きるべきか？
天上より三次元の人々へ警鐘。希望あふれる天使の詩。悩めるものへ希望と愛と光をもたらす。

定価700円 (税込) 送料別



光に生きる人生をあなたに

天使の冠 (エルフォイド)

天の善しとされる正しさとは？ 勇気とは？
人はどう生きればよいのでしょうか？ 誰もが一度は突き当たる問を解明する。価値のない宗教、悪魔の憑依から救われ、神を見た人々の手記、アトランティスの謎の解明、現正法理論を含め現代の人々に光に生きる人生をもたらします。

定価803円 (税込) 送料別



光、光、光の世界をあなたに

天使の群正・続 (エルパーラム)

誰もが夢見ずにはいられない理想社会 (ユートピア)。そこに至る道はいつの時代でも遠く険しい。高次元の天上界が明かす真実の数々―天の現象と霊体構成。イエス・キリストの復活とトリノの聖衣の謎他。大天使方が人類に贈る真理と希望のメッセージ集 !!

(正)定価810円 (税込) 送料別
(続)定価910円 (税込) 送料別



天は人の世に破壊をもたらさない

天使の知恵 (エルロイ)

21世紀へ向けてのエネルギー問題、自然健康法、今話題のク聖骸布クの実験成果、法と人類と進化、UFO宇宙人の正体は？ 等、高次元からのメッセージを含め卓越した内容を網羅。さらに、未来へ向かう若者たち、未来を案じる大人たち、何も知らない子供たちへ愛と希望と勇気を今ここに贈る—

定価910円(税込) 送料別

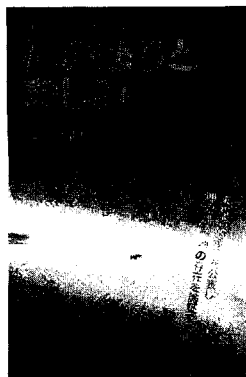


天は愛と義と智に満ちた人々のためにある

エルカロム (天使の角笛)

旧約聖書に印された天の足跡、天上界と古代日本に関わる考察、食生活について、そして心の分子レベルでの物理、化学的分析を発表。希望に胸をふくらませ、未来をみつめる人類のために今、天は時の流れを変える角笛となろう。

定価803円(税込) 送料別



最後の審判の真実

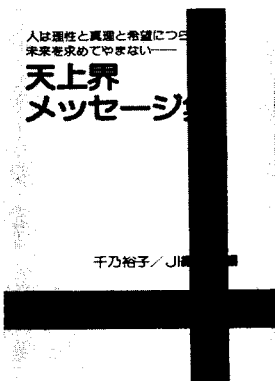
神の怒りと悲しみ

歩紀袖衣著

未知の地球史を公表し、魂と転生の構造を科学的に、そして分かり易く解説。「全知全能」・「創造主」としての神を否定し、知性と愛を持つ「霊体の集団」としての神の存在を論証する！ 天と共にあろうとする人々の生き方を追求し、21世紀へと人類の未来をつなぐ方途を探る。

定価980円(税込) 送料別

☆人は理性と真理と希望につらなる未来を求めてやまない

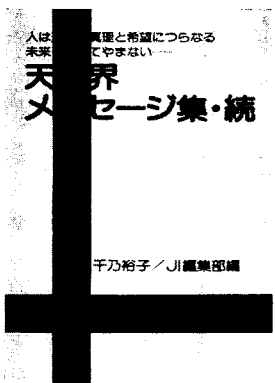


天上界メッセージ集

千乃裕子／J I 編集部編

21世紀に至る人の真の望みは何であろうか？
一世の滅亡を計る悪魔の思想（社会・共産主義）を絶対の真理と仰いではならない。世の平和を虚しいものにしてはならない。「最後の審判」という大いなる法の裁きを続行の下で現天上界が語る人類救済の数々のメッセージ、美しい地球を死の星とするか、今、読者に本書をもって問う！

定価1240円（税込） 送料別



天上界メッセージ集・続

千乃裕子／J I 編集部編

♪神と人類のかけ橋——人類の永き歴史を通じ、この地球をユートピアにする為に、モーセをブツタ（釈迦）をイエス・キリストをそして多くの聖人・賢者を教え導いてこられた天上界高次元の方々の偉業のメッセージ。大反響を呼んだ『天上界メッセージ集』に続き天上語によるメッセージ、天使の詩を含め珠玉のメッセージを一挙収録！

定価1240円（税込） 送料別



古代日本歌謡に歌われる再臨の救い主達——

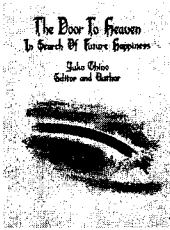
古代日本と七大天使 神代編

西澤徹彦著／千乃裕子監修

神国日本のルーツを科学的に証す書！ 古代日本歌謡、和歌がヘブライ語の意味を持つ事を見出し釈出。天を司る七大天使をはじめ神ヤハウエ（エル・ランティ）、イエス・キリスト、モーセ、ブツタ（釈迦）と日本との関わり、日本の存在すべき意味を論証。隠蔽された数々の真実を明らかにし謎の古代史説にピリオドを打つ。

定価2580円（税込） 送料別

〈大好評の千乃裕子天国シリーズ外国語版〉



〈英訳版〉

天国の扉

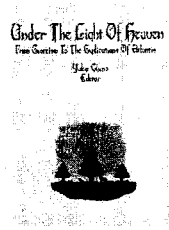
定価2840円
(税込)



〈英訳版〉

天国の証

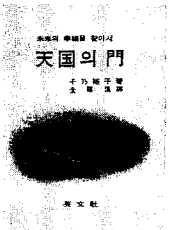
定価3380円
(税込)



〈英訳版〉

天国の光の下に

定価3380円
(税込)



〈韓国版〉

天国の扉

定価1240円
(税込)



〈中国版〉

天国の扉

定価1240円
(税込)



〈中国版〉

天国の証

定価1240円
(税込)

—科学時代の啓蒙書—

月刊 JI 定価400円(税込)
年間購読4000円

21世紀を迎える科学時代に正法という人類普遍の真理をもとに、科学、医学、心理学、政治、文化、芸術などおよそ人間のかかわる全ての分野を網羅。常に善悪・理非を明らかにする、現実的で合理的な知恵を教え精神と人格の向上を計る啓蒙書!



現象テープ・リスト

天上界の真の現象は、下記のテープのみです。
現正法をよりよく理解する為に是非お求め下さい。

No.1～No.3 欠番	No.27 正法流布について(ガブリエル様) 質疑応答 S.55.8.11 現象 土田展子
No.4 正法基礎講座「ミカエル様の法話」 S.52.6.23 現象 土田展子	No.28 自己犠牲について(ミカエル様) S.55.9.14 現象 土田展子
No.5 正法基礎講座「明るいい心、暗い心」 S.52.7.18 講師 千乃裕子	No.29 イエス様クリスマスメッセージ「愛と信仰」 S.55.12.21 現象 土田展子
No.6 正法基礎講座「高校生クラス」 S.52.8.1 講師 米本 明	No.30 啓蒙運動としての現正法 S.56.4.12 講師 岩間文彌
No.7 正法講座「天国の扉」出版お祝いの言葉と共に(ミカエル様・イエス様) S.52.12.1 現象 土田展子	No.31 天上界と質疑応答(ガブリエル様) S.56.9.10 現象 土田展子
No.8 正法講座(イエス様・ミカエル様) S.52.12.14 現象 土田展子	No.32 物の考え方について(ラファエル様) S.56.9.15 現象 土田展子
No.9 正法改正理論 S.53.3.21 解説 千乃裕子	No.33 慈悲について(ガブリエル様) S.56.9.13 現象 土田展子
No.10 正法を学ぶ人のためにI「後継者について」 (ミカエル様) S.53.7.10 現象 千乃裕子 土田展子	No.34 霊について(ミカエル様) 霊能と天上界高次元の霊について(ラファエル様) S.56.10.18 現象 千乃裕子 土田展子
No.11 正法を学ぶ人のためにII(ミカエル様・イエス様) S.53.10.16 現象 千乃裕子	No.35 クリスマス・メッセージ(イエス様 ラファエル様 ガブリエル様 ミカエル様) S.56.12.20 現象 土田展子 谷田三枝 金鐘漢
No.12 正法を学ぶ人のためにIII(ミカエル様) S.54.2.1 現象 千乃裕子 メッセージ(ブツ様) S.53.10.1 現象 土田展子	No.36 消滅について(ガブリエル様) S.56.12.27 現象 土田展子
No.13 心の働き S.54.3.17 講師 岩間文彌	No.37 イエス様 ウリエル様 サリエル様 パヌエル様 ラグエル様 メッセージ S.57.1.10 現象 土田展子 谷田三枝
No.14 正法の歩みーギリシャ時代 S.54.6.3 講師 岩間文彌	No.38 ユートピアについて(ウリエル様) ガブリエル様 メッセージ S.57.1.17 現象 土田展子 谷田三枝
No.15 身体と霊体の成り立ち S.54.9.2 講師 岩間文彌	No.39 進化の歩みをたどりて S.58.7.10 講師 岩間文彌
No.16 ミカエル様メッセージウリエル様正法講座 S.54.11.4 現象 土田展子	No.40 ガブリエル様 イエス様 メッセージ S.58.7.10 現象 谷田三枝
No.17 イエス様 クリスマス・メッセージ S.54.12.23 現象 土田展子	No.41～No.44 欠番
No.18 「魂の研磨」について(ガブリエル様) S.55.2.10 現象 土田展子	No.45 天の奇蹟・下巻 発刊によせて (ラファエル様) S.62.7.5 現象 金鐘漢 千乃裕子
No.19 「宗教と人間の関係」(ガブリエル様) S.55.3.9 現象 土田展子	No.46 「天の奇蹟」完結にあたって 「天上界と古代日本」 S.62.7.5 講師 岩間文彌 西澤徹彦
No.20 再び愛について(ミカエル様) S.55.4.6 現象 土田展子	☆目の不自由な方に声の圖書を！ (心に響りかける朗読です。) 天国シリーズ①「天国の扉」全6巻 7,000円 ②「天国の証」全6巻 7,000円 ③「天国の光の下」全9巻 7,000円(各巻送料共) セルメスシリーズ①天使の詩(セルメス) ②エルフォイド(天使の冠) ③天使の群(エルバーラム) ④統天使の群(統エルバーラム) ⑤エルロイ(天使の智慧)ー各巻5,000円 ☆朗読伴奏のみのコレクションテープ60分テープ 2本を一セット(2,000円送料別)で販売致しております。
No.21 原罪とは(ラファエル様) S.55.4.13 現象 土田展子	
No.22 現正法と転生輪廻 S.55.5.4 講師 岩間文彌	
No.23 A.心の美は(ガブリエル様) S.55.5.11 現象 土田展子 B.「天上界よりの通信」1977年の約束 (ミカエル様) GLA関西新年講演会 (於東大 阪市民会館)より抜粋	
No.24 第1回慈悲と愛協会総会(ミカエル様メッ セージ) S.55.5.18 現象 土田展子	
No.25 天国語の語源について(ラファエル様) 質疑応答 S.55.6.29 現象 土田展子	
No.26 良い人間関係について(ミカエル様) 質疑応答 S.55.8.10 現象 土田展子	
テープ価格は1本1,200円(送料・消費税は別) 〒150 東京都渋谷区松涛1-4-9 サンエルサビル101号 (株)ジェイアイ出版 TEL 03-5453-1870	